



Nagano Industrial and Commercial  
Encouragement Organization

NICE

# 元気で! 頑張る! 中小企業 支援事例集

令和5年度

技術開発から販路開拓、創業から事業承継  
までコーディネーター、推進員や専門家などが  
関係セクションと一体となって一貫した支援をいたします。

公益財団法人長野県産業振興機構

# 元気で! 頑張る! 中小企業 支援事例集

# 44 Case

## Contents

令和5年度

創 業			
01	動画制作で若者の地元就職を応援 ~企業の人手不足にも効果発揮~	(株)OWL	経営支援部 1
02	産後の母親への思いやり ~食事を軸とした産後ケアと子育て支援~	パンクキンハウス*ゆりかごはん	経営支援部 2
03	2人訪問看護で地域を元気にする	合同会社オリーヴ	経営支援部 3
04	管理会計による売上目標管理と価格転嫁交渉による売上拡大	(株)エムリンク	長野県よろず支援拠点 4
経営革新			
05	円筒・内面研削の高精度探究による事業再構築	(株)メイユー	経営支援部 5
06	千曲市産アンズを使用したシフォンケーキの新商品を開発!	畑野商店 手作り工房 旬な菜	長野県よろず支援拠点 6
07	自社の強みを活かした焼肉店への新事業進出	(有)オタギリ	長野県よろず支援拠点 7
08	[ECサイト商品構成見直し]で売上アップ!	FOREST BASE	長野県よろず支援拠点 8
09	有機米味噌新商品クラウドファンディングで、180万円超を達成へ	(有)喜多屋醸造店	長野県よろず支援拠点 9
10	Instagramでの集客支援の結果、フォロワー&来店客が増加!	ruteyu(ルテーユ)	長野県よろず支援拠点 10
11	白色申告から青色申告にむけてパソコン会計への取り組み	民宿 松尾	長野県よろず支援拠点 11
技術・製品開発			
12	浅間山の溶岩石を用いた製品開発と販路開拓	(株)上野石材商会	企画連携部 12
13	研削・研磨工具メーカーの挑戦! 高性能切断砥石の開発支援の軌跡	(株)レゾトン	企画連携部 13
14	市田柿ブランド向上プロジェクト	飯田ポリッシング(株)	企画連携部 14
15	在宅療養家庭のニーズから医療的ケア児等用の搬送器具を開発	ファミリー・サービス・エイコー(株)	信州医療機器事業化開発センター 15
16	海外製消化器ステントの国産化と新規開発した脳生検針の拡販支援	高島産業(株)	信州医療機器事業化開発センター 16
17	Go-Tech事業での支援 農業土壌研究開発について事業の伴走支援	(株)Henry Monitor	グリーンイノベーション推進部 17
18	高効率モータ向け「アモルファス積層コア」の開発を補助金で支援	(株)小松精機工作所	グリーンイノベーション推進部 18
19	コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業から産業DXへ	(株)AB.do	ITバレー推進部 19
20	「ワンちゃんにもあげられる」県内初! 商品誕生ストーリー	go.goat(ゴーゴート)	マーケティング支援部 20
21	学生のアイデア満載「はやしや・長野大学新製品開発プロジェクト」	(株)はやしや	松本センター 21
販路開拓			
22	航空機産業展示商談会「エアロマート名古屋2023」に出展して実現性の高い商談を推進	エアロスペース飯田	航空機産業支援センター 22
23	セミナー・ドイツ展示会・技術提案商談会で欧州EV部品の販路拡大をトータル支援	(株)サンコー	マーケティング支援部 23
24	ベトナム展示会出展により、お客様の「困りごと」をつかむ	(株)丸信製作所	マーケティング支援部 24
25	METALEX VIETNAM2023出展 お客様とのつながりを大切に!	TAKASHIMA VIETNAM LTD	マーケティング支援部 25
26	初めての商談会参加で新規取引先開拓にチャレンジ!	(有)今村精工	マーケティング支援部 26
27	日本の伝統食「長芋」を世界の市場へ	(株)吉岡	マーケティング支援部 27
28	農業の新たな付加価値を生み出す6次化産業を推進します	(株)今井恵の里農産物加工所	マーケティング支援部 28
29	長野県の食材を多くの方に知っていただき食べてほしい!	(有)本郷鶏肉	マーケティング支援部 29
30	「日本一のおんずの里」の杏仁で、本格的な「杏仁豆腐」を作りたい!	森食品工業(株)	マーケティング支援部 30
31	ニッチな販路で新たなファンを生みだす!	(株)信州自然王国	マーケティング支援部 31
事業承継・引継ぎ			
32	事業承継計画の「見える化」で早期承継を目指す	(有)日野岩	長野県事業承継・引継ぎ支援センター 32
33	事業承継計画で芽生えた“事業承継の覚悟”	(有)小山技工所	長野県事業承継・引継ぎ支援センター 33
34	法人成りも視野に後継者の育成・事業承継を目指す	斎藤金型設計事務所	長野県事業承継・引継ぎ支援センター 34
35	事業承継に合わせて経営計画策定&販路開拓に成功!	(有)中央工芸	長野県よろず支援拠点 35
研究会・セミナー			
36	地場食品産業の持続的発展のために研究会活動を行っています!		次世代産業部 36
37	「航空機産業 品質保証まるわかりセミナー」に参加して品質保証スキルを習得		航空機産業支援センター 37
38	「ものづくり産業からサーキュラーエコノミーを考えるシンポジウム in NAGANO」を開催		グリーンイノベーション推進部 38
39	ゼロカーボンをメインテーマに 善パレミニ学会を開催		長野センター 39
40	小規模水力発電の普及促進を目指した産学官連携の研究を開始		グリーンイノベーション推進部 40
41	水素エネルギー利用技術の先進技術の実態を調査し、事業化を目指す企業を支援		長野センター 41
42	プログラム未経験者を対象にPythonの基礎講座を開催し実践につなげる!		上田センター 42
43	工程不良未然防止と慢性不良解決の為の実践講座		松本センター 43
44	IE講座(工程改善セミナー)と先進企業見学会を開催		伊那センター 44

活用した補助金・支援制度等

長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金

事業者 (株)OWL

- 代表者/宮嶋 拓郎
- 所在地/長野市長野東町146-3 東町ベース1F
- 従業員数/2名
- 連絡先/080-7842-4105
- URL/https://owl-inc.ne.jp/

事業内容 地域企業の魅力発信動画及び社内教育用動画制作、動画のプラットフォーム運営



### 企業の現状及び支援の経緯

同社は、令和5年に設立し、就職率安定や人手不足対策として、企業の事業内容のPR動画や、社内教育用マニュアル動画の制作を行っています。創業後PRのため『産業フェアin信州』に出展を行いました。今後は、求人企業と求職者をマッチングするプラットフォームを運営し、企業の魅力をより深掘りして伝え、地方中小企業の就職率安定を目指しており、プラットフォームの作成・運営の推進が課題となっています。代表者が、創業について思考している際に、長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金を知り、相談いただいたことで、伴走支援員による申請に向けた支援を行うようになりました。併せて、代表者は長野商工会議所の広域専門指導員にも相談しており、多機関からの支援で事業の内容をブラッシュアップをしてきました。



### 実施した支援内容

代表者から最初に相談を受けた際にアドバイスを行った内容は、「動画制作だけでなく、地域の課題解決の部分をもう少し掘り下げた方が良いのではないか」ということです。当支援金は、地域の課題をビジネスの手法で解決するという目的があるため、当初の事業内容だけでなく、地域の課題解決の要素を含める必要があります。長野商工会議所の広域専門指導員も同意見であり、3者の打合せの結果、若者が希望する企業の動画がすぐに閲覧できるプラットフォームを作成・運営することも事業に含める事になりました。また、企業における人材教育のマニ

アル動画作成も教育係の不足等の観点から人材不足対策として位置づけることにしました。



動画撮影風景

### 支援の結果及び今後の展開等

当初の事業計画は、企業の動画制作のみでしたが、最終的に事業の3本柱を立てることができました。それは、1.地域企業の魅力プロモーション動画制作 2.社内教育用マニュアル動画制作 3.地域企業の採用プラットフォームの作成・運用です。伴走支援員、支援機関からの助言を受け入れていただき、事業内容を再考いただいたことで、令和5年長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金の採択者となりました。今後は、県内企業と連携し、PR活動に力を入れ、3本柱を基軸に事業展開を推進していく方針です。



### 支援を受けて

代表取締役 宮嶋 拓郎 氏

創業期の金銭的な補助に加え、支援員さんの伴走支援により、創業前に計画していた事業内容に対してあらゆる角度から意見をもらい、事業内容をブラッシュアップしながら創業できることが、本支援事業の最も価値のある部分だと思えます。事業をよりよくしていくためには、自分以外の視点が必要であり、支援員さんがその役割を担ってくれたことで、創業期の不安が解消されました。

### 担当部署

### 経営支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-227-5028 [FAX] 026-227-6086 [Email] keieishien@nice-o.or.jp

事業者 **パンプキンハウス\*ゆりかごはん**

●代表者/白倉 禎美 ●所在地/東御市八重原308-1 ●連絡先/090-5442-4069  
●URL/https://www.instagram.com/yurikago\_gohan?igsh=azljanJnODQ0bjji

事業内容 産後の母親への食事提供と子育て相談等

企業の現状及び支援の経緯

パンプキンハウス\*ゆりかごはんは、令和5年に東御市八重原の自然豊かな場所に開業した、産後の母親の不安定な心に寄り添い、食事提供と子育て相談を行う事業所です。代表者は、母親としての経験に加え、保育士、家族療法カウンセラー、子育てアドバイザー、産後ケアリストなどの経験があり、そこで得た知識と技術、経験を活かし、食事を糸口にも母親と家族の心の支援を行いたいと考え、創業を決意されました。創業準備の中で、長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金を知り、4月の個別相談会（長野会場）で説明を受け、それをきっかけに支援が始まりました。



親子がゆっくりくつろげるスペース

実施した支援内容

この事業に対する熱意から、やりたいことがいくつも湧き出てくるといった様子であったため、支援金でポイントとなる地域課題を明確にしてほしいこと、また事業として、何をやるのか等の実施内容を区分けして整理するよう助言を行いました。次に、児童の健全育成、産後ケアなどの業界に、長年にわたり携わった経験を事業への支援体制とするため、いくつもの子育て支援組織と連携を計画していました。そこで、連携する事業者との関係をしっかり把握し、強い協力体制となるようアドバイスをしました。また、支援金採択後も事業が円滑に進むように、支援金の交付に必要な資料や書類の整備、確認の作業のサポートなどを通じて、継続的な伴走支援を行いました。

支援の結果及び今後の展開等

支援員の助言を踏まえ、事業の再考が行われ、「1.産後の体に良い栄養バランスのとれた食事を提供し、その際に母親のメンタルサポートを行うこと」と「2.旬の食材と一緒に食事を作り、できた家庭料理を囲み、気軽に子育ての相談ができ、母親同士がつながれる居場所を作ること」の二つの柱をコンセプトとして明確化でき、令和5年長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金の採択者となりました。現在は、上田市と東御市の子育て支援施設からの引き合いがあり、食事提供の実施の準備が進んでいます。また、今後はワークショップの開催や宿泊の提供なども計画しており、支援組織の連携協力もあって、今後の事業の成果が期待されます。



おいしいごはんをお届けする台所



ゆったりした広い敷地

支援を受けて

代表者 白倉 禎美 氏

支援金を受け、台所を改装して衛生的に使用でき、保健所の許可の取得と安心して食事の提供が可能になりました。居間の改装は古民家の良さを活かし木の温もりを感じる母親たちが一息つける雰囲気のある空間になりました。台所と居間をつなげ、両側外の景色が見られ、明るく開放的になりました。駐車場整備は、利便性が向上しました。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5028 [FAX] 026-227-6086 [Email] keieishien@nice-o.or.jp

産後の母親への思いやり、食事を軸とした産後ケアと子育て支援

活用した補助金・支援制度等

長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金

**事業者** 合同会社オリーブ

●代表者/小出 真理子 ●所在地/飯田市毛賀1627  
●従業員数/6名 ●連絡先/0265-54-1553 ●URL/https://olive.bona.jp/

**事業内容** 訪問看護ステーション (医療・介護・精神)**企業の現状及び支援の経緯**

同社は、看護師が訪問看護ステーションで動きやすい体制を整え、地域の医療に貢献することを目指して、令和5年に創業しました。経験年数に関係なく原則2人での訪問看護を提供し、職員の心理的・身体的負担を軽減しながら教育と指導ができる体制を組み、患者だけではなく家族の支援をすることも特徴です。地域医療機関連携も行っており、担当医と患者を情報連携するインターネットシステムの利用も評価されています。事業を開始するにあたり、資金援助として「長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金」を活用すべく申請支援相談があり、伴走支援員による支援を開始しました。

**実施した支援内容**

まずは、支援金応募について、支援金の趣旨(特に地域課題解決とは)の説明と申請書等の記載ポイント説明の面談を行いました。(例:文章説明ではなく、見やすい表にまとめる。少ないページで見えやすい申請書作成等)また、事業計画書には事業説明を主に記載し、創業に至る経緯等は面接時にプレゼンを行う構成で作成するよう助言を行いました。当初より創業目的が明確であり、経験豊富なスタッフ体制の準備も整っていたこと、また面

談でのポイントを把握いただいた上での事業計画書作成に着手していたため、大きな修正は不要でした。しかし、専門用語の使用が目立ったため、審査員等の皆様に理解・支援してもらいやすくなるよう説明用語の補足を追加するようアドバイスを行いました。



専門知識豊富な事業計画作成責任者

**支援の結果及び今後の展開等**

ポイントを押さえて申請いただいたことで、令和5年の長野県ソーシャル・ビジネス創業支援金の採択者となりました。また10月には、支援金申請時の計画書を基に「飯田市起業家ビジネスプランコンペティション」(起業家部門)に応募し、最優秀賞を受賞されました。地域での認知度も高まり、同社への期待も大きくなっています。今後は、常勤4名、月80件/人を目標とし、更に企業内での介護離職が問題化されている会社向けに労働環境改善提案とワークライフバランス推進のアドバイスを行い、介護しながら就労継続できるよう従業員と企業の架け橋となるサポート展開を計画しています。また、超高齢社会の南信地域で受診困難者に対応できるよう、オンライン診療の補助の活用を予定されています。



2名でのオンライン診療支援

**支援を受けて**

代表 小出 真理子 氏

私にとって起業は、大きな挑戦で課題に向けた熱意が大きく視野が狭くなりがちでした。内容をわかりやすくプレゼンすることの大切さをご指導いただきありがたかったです。支援当初は、数回のやり取りで書類提出するのだろうと思っていましたが、想像以上の回数のやり取りをしていただけだ伴走支援は大変心強かったです。支援金は訪問看護の備品や人件費に使用しました。大変感謝しています。

**担当部署****経営支援部**

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-227-5028 [FAX] 026-227-6086 [Email] keieishien@nice-o.or.jp

Case  
04

活用した補助金・支援制度等

よろず支援拠点事業

事業者 (株)エムリンク

- 代表者/大村 正彦 ●所在地/諏訪市中洲神宮寺220-1
- 従業員数/6名 ●連絡先/0266-78-7780

事業内容 FA 装置製作：メカ設計、電気設計、および制御装置の組立てと調整のサービス

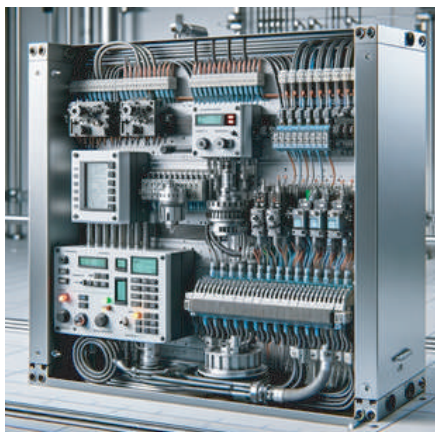
企業の現状及び支援の経緯

同社はお客様の要望に応じた設計から実装まで一貫して対応し、装置の出荷、設置、メンテナンスも行っていきます。

現在、売上が減少傾向にあるという厳しい状況に直面しており、その結果、収益力も低下していました。収益力向上を目指し、規模の大きな企業との取引も視野に入れており、同社が不利にならないような交渉体制や取引の進め方を確立したいと考えていました。さらに、新しい取引先の開拓方法についても学びたいと考えており、このような背景から信用保証協会を通じて具体的なアドバイスを求めて相談に至りました。

実施した支援内容

契約においては、支払いサイト、受発注方法、瑕疵担保責任、責任賠償を含む基本契約の締結を推奨し、これらの複雑な事項を含む契約書に関しては弁護士への相談を助言しました。新規取引先への見積りについては、事前に見積り項目に関する共通認識を持つことの重要性を強調しました。また、諏訪・茅野・岡谷エリアの展示会への出展を勧め、経験を積んだ後には東京や大阪での展示会にも挑戦することを助言しました。その際、小規模事業者持続化補助金や県の助成事業などの支援策を紹介しました。取引先との価格交渉では、材料コストの上昇を考慮し、見積書の有効期限を1ヶ月に設定するよう助言しました。



支援の結果及び今後の展開等

価格交渉においては、材料価格の上昇について既存の顧客からも一定の理解を得ることができ、売上と利益は上昇しました。現在、ロボットの製作を進め、展示会への出展を計画しています。競合他社は低価格で製作を引き受けており、価格競争を行うだけでは市場での見通しが立たない状況です。そこで、ロボットや制御を含む要求機能を満たす提案力を強みとし、展示会などを通じて売上を拡大していく方針です。



支援を受けて

代表取締役社長 大村 正彦 氏

自社の将来の生き残りや成長を目指す中で、何が強みであり、どのようなビジョンで経営すべきかを対話を通じて理解することができました。価格交渉には不安もありましたが、相場価格の調査方法を学び、これを理解してくれる得意先もいたため、良い経験になりました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

管理会計による売上目標管理と価格転嫁交渉による売上拡大

創業

活用した補助金・支援制度等

事業再構築補助金（経済産業省）

事業者 (株)メイユー

- 代表者/小池 淳一 ●所在地/茅野市金沢2850番地1
- 従業員数/47名 ●連絡先/0266-79-5603 ●URL/https://www.meiyuu-kk.co.jp/

事業内容 精密部品加工、組立



企業の現状及び支援の経緯

同社は、1987年に有限会社メイユーとして設立後、本社移転や工場新築、株式会社への商号変更等を経て現在に至っています。現代表取締役の小池淳一氏は2008年から現職に就任しています。

事業内容として、半導体、自動車、医療、食品、産業用機械など様々な分野に向けて、精密加工部品や装置組立、治工具や試作品の製造を請け負っています。多品種少量生産に特化し、顧客ニーズを踏まえた最適加工・組立方法を提案し、顧客から高い評価を受けています。

昨今は、主に製造装置関連の顧客から、研削加工の高精度化が求められていることから、当該ニーズに対応できる設備の導入に向け、事業再構築補助金への申請を検討していました。

実施した支援内容

当機構は、商標出願で同社を支援していたINPIT 長野県知財総合支援窓口からの紹介を受け、支援を開始しました。事業再構築補助金へ申請する事業計画の策定にあたり、当機構は認定経営革新等支援機関として、事業再構築指針への合致、SWOT分析、設備導入の目的の明確化、想定顧客・市場規模といった事項の確認を伴走支援しました。無事に採択され、ジグ研削盤と円筒研削盤が導入された後は、当該設備を用いた人材育成や営業活動の高度化を目指しての取組を提案しました。工業技術総合センターの担当部署の方々との検討の場を設け、まずは円筒研削



本社工場

盤へ同センターのIoTキットを取り付け、稼働データの利活用を図ることとしました。

支援の結果及び今後の展開等

設備の導入により、既にこれまでできなかった加工の依頼が来るようになってきました。また、IoTキットによる設備の稼働状況や、研削盤を利用した加工の動画などのデータも蓄積されてきています。

- 今後、同社ではこれらを活かして、
- ・更なる受注拡大のための営業活動の強化
- ・人手不足の状況下で、誰が担当しても、同様の高精度な加工ができるよう、蓄積した動画を活用して人材育成を実施
- ・研削盤の稼働データを利用した営業活動などに取り組んでいきたいと考えています。



導入したジグ研削盤



導入した円筒研削盤（IoTキット導入後）

参画機関

- INPIT 長野県知財総合支援窓口((一社)長野県発明協会)
- 長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門

支援を受けて

代表取締役 小池 淳一 氏

事業再構築補助金への申請に当たり、客観的に自社を分析し、事業計画書の記載内容へ落とし込んでゆく過程は難しく、側面的にご支援をいただき大変ありがたかったです。今後も、一層の多品種少量、高精度加工に取り組んでまいりたいと考えております。ご支援・ご協力をお願いいたします。

担当部署

経営支援部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5028 [FAX] 026-227-6086 [Email] keieishien@nice-o.or.jp

**事業者** 畑野商店 手作り工房 旬な菜

●代表者/畑野 忠人 ●所在地/千曲市磯部545 ●従業員数/20名  
●連絡先/026-275-0059 ●URL/https://www.instagram.com/shunnasai\_1130/

**事業内容** 製造業：おやきやアンズとリンゴの加工品、加工みそなどの製造販売

**企業の現状及び支援の経緯**

畑野商店は代々畑野家の女性が切り盛りし、現在は3代目の和泉さんが運営の責任を担っています。平成15年に「手作り工房旬な菜」を始め、従業員20名とともに、おやきやアンズとリンゴの加工品、加工みそなどを製造販売しています。

財務状況を改善するため、何か新しい収入源を模索しました。事業再構築補助金を利用し、他にはない「千曲市産アンズのシフォンケーキ」を製造するために、申請を行い採択されました。

アンズは国内でも長野県が大きなシェアを誇り、首都圏でもアンズを使ったスイーツの引き合いが多いことに着眼しました。もともと、畑野商店の商品開発力、加工品の品質の良さには定評があったので設備を整え、シフォンケーキの製造をスタートさせました。

さらに、他の加工品の販路も拡大させるべく、積極的に展示会などに参加し、収入源を確保していくことを目標として設定し、展示会にエントリーするための資料や広く周知してもらうためのPR活動も重要な要素であることを提言しました。

**実施した支援内容**

事業再構築補助金で新たに導入した設備で、従業員とともに、試作を重ね、特にアンズの特徴であるオレンジ色が綺麗に出るようにアドバイスを行いました。パッケージやチラシについても、より魅力ある商品として見てもらえるよう、ポイント的にアドバイスを行い、同時に、長野県よろず支援拠点で行ったMakuake(※)内でのオンライン催事にも参加していただき、より多くの人に周知

ていただけるように提言しました。新たな販路を拡大するため、展示会へ積極的に参加するよう提案し、提出する資料のチェックも行い、高付加価値の商品として認知してもらえよう努めました。

課題だった原価管理については、製造している商品の原価計算を行い、必要に応じて価格調整も行いました。亡き先代の思いを受け継ぎたいという強い思いがあり、できる限りその思いを尊重する支援を心がけました。

(※)Makuakeとは、(株)マクアケが運営する、新しいアイテム・アイデアを紹介するクラウドファンディングサービス

**支援の結果及び今後の展開等**

おやきなどの既存商品については、展示会やMakuakeへの積極的な参加により、県内外で新たな販路が増え、売上拡大につながっています。今後は自社サイトのリニューアルも進め、通販事業も拡大していきたいと考えています。

シフォンケーキをきっかけに従来の主力商品の販売にも繋がるように、アンズジャムやコンポートとのセット商品を販売していく予定です。

また、アンズのシロップ漬けが数量限定なので、シフォンケーキも個数限定などにして、シロップ漬けとともに希少価値を高めるため、予約販売ができるよう検討しています。

**支援を受けて**

旬な菜 運営責任者 畑野 和泉 氏

まず原価計算から見直しをして適正価格をしっかりと割り出すところからご指導いただき資金繰りが少しずつですが安定しました。

紹介いただいた商談会やMakuakeにも参加したことにより、徐々に県外への販路が広がり、今まで開拓できていなかった一般の客層への周知につながりました。

**担当部署****長野県よろず支援拠点**

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

千曲市産アンズを使用したシフォンケーキの新品を開発！



活用した補助金・支援制度等

よろず支援拠点事業、事業再構築補助金(経済産業省)



事業者 (有)オタギリ

- 代表者/小田切 裕治 ●所在地/中野市一本木447
- 従業員数/32名 ●連絡先/0269-22-4075

事業内容 小売業：スーパー、焼肉店

企業の現状及び支援の経緯

創業以来、地域のお客様を中心に根強い常連顧客を獲得しています。近年は大型スーパーの台頭により価格面で大きな弱みを抱えていました。この状況を打破するため、自社の強みである牛肉や惣菜を前面に打ち出して差別化を図りましたが、売上や利益の増加には至らず、加えてエネルギーコスト上昇により利益を圧迫する状況が続いていたため、地域密着スーパーという既存事業の軸とは異なる事業の構想、および自社の強みを活かした事業展開が必要でした。代表者はすでに新事業の構想を持っており、その内容は自社の強みを活かしながら収益の大幅な向上が狙える焼肉店の展開です。実際に焼肉店を展開するにあたり、投資コストに見合った収益を確保できるかが課題でした。代表者は事業再構築補助金の申請を検討していたため、事業計画をブラッシュアップするための支援を行いました。



既存事業の強み活用や競合焼肉店との差別化などを記載するようアドバイスし、その後何度かの修正を経て、収益計画において投資回収期間や付加価値額の増加率が適正数値かどうかを確認しました。事業再構築補助金の申請及び採択が最終目標となるのではなく、そこから新事業が収益化するところまでを見据え、新事業でリスクを取りつつも収益化までのロードマップを可能な限り明確にしました。

支援の結果及び今後の展開等

当初は新事業の展開に向けたロードマップや収益モデルがやや不明確でしたが、今回の支援により具体化されたことが大きな成果となりました。収益計画は相談前より20%以上利益が増加する見込みとなり、事業化の際には既存事業に加え、新たな収益の柱としての展開が期待できるほどになりました。また、観光客もターゲットとして加えたことで地域活性化にもつなげることが可能となりました。

実施した支援内容

代表者は、事業計画書の策定で課題を抱えていたので、対面による事業計画書のブラッシュアップを図りました。まず現状分析により、既存事業における課題と今後の方向性についての流れを明確化しました。その上で、新事業として焼肉店を運営するに至った要因、



支援を受けて

代表取締役社長 小田切 裕治 氏

今回、事業再構築計画を作成するにあたり、長野県信用組合様から長野県よろず支援拠点様の存在を教えてくださいました。計画作成をしていく最中に自社の強み、これから伸ばしていく部分(課題)を再認識することが出来ました。弊社の場合には事業継承も控えているため、その前準備にもつなげることができました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

## 事業者 FOREST BASE

●代表者/大工原 孝弘 ●所在地/佐久市岩村田3162-43柳沢ビル101  
●従業員数/2名 ●連絡先/050-8883-8718 ●URL/https://forestbase.shop/pages/about

事業内容 小売業：登山、トレッキング用品等

### 企業の現状及び支援の経緯

山好きが集まれる場所 (BASE) を佐久市内で展開しています。日常にも使用できるデザイン、機能性のある物をセレクトし、大型店との差別化を図るためガレージブランドに特化しています。2022年、佐久平駅周辺に登山・トレッキング用品店をOPENしましたが、ホームページ構築やチラシ配布といったプロモーション展開にもかかわらず、集客と売上が不安定でした。そのような中、金融機関の紹介で経営相談会に参加し、既存顧客に対し店舗イメージや商品特性のリサーチを行ったところ、相談者の求める顧客層とホームページで伝えようとしている企業イメージとのギャップが浮き彫りになり、来店する顧客層や需要が不明瞭であることも判明しました。同業他社が近隣にないためのリサーチ難から、仕入れの戦略や商品数量の適正設定が難しく、売上の機会損失が生じていました。課題解決に向けて、同社のペルソナ設定と「強み」の情報発信を強化し、地域に根差した店づくりを提案しました。

### 実施した支援内容

既存の顧客の声を活かしてペルソナを把握しました。これに基づいたWEB施策とSNS展開を通じて、本来の顧客層にアプローチする効果的な方法を提案しました。具体的には40代～50代の登山・トレッキング愛好者をターゲットに、SEOとMEO対策により、ホームページの検索上位を目指しました。また、SNSを活用し、独自セレクト



した商品をアピールし認知度向上を図りました。さらに、ファンづくりのためには、イベント出店や佐久市内の店舗にショップカードやステッカーを配置し、口コミを促進する施策を展開しました。商圈にとらわれず売上を拡大するために、ECサイトの商品構成も見直しました。市場調査から登山・トレッキングのビジネスが拡大トレンドであるため、今後も拡大が見込めます。

### 支援の結果及び今後の展開等

イベントと口コミによってリピート来店が増加し、ECサイトの改善により売上が拡大中です。今後はUSED部門の導入を計画し、アパレルや山道具の販売を通じて更なる成長を目指しています。また、店の内装・陳列レイアウト変更についてもアドバイスし、店奥まで回遊できるようになり、休憩スタンドの導入により滞在率向上と山に興味のない層の誘致効果も現れています。



### 支援を受けて

代表 大工原 孝弘 氏

担当のコーディネーターとは、何度かお会いして、的確なアドバイスをいただきました。今後も継続して経営相談会をお願いしたいです。

### 担当部署

#### 長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

「ECサイト商品構成見直し」で売上アップ!



# Case 09

有機米味噌新商品クラウドファンディングで、180万円超を達成へ

活用した補助金・支援制度等

よろず支援拠点事業

## 事業者 (有)喜多屋醸造店

- 代表者/佐々木 一夫
- 所在地/岡谷市天竜町2-3-3
- 従業員数/9名
- URL/<https://www.kitayamiso.com/>

事業内容 味噌、醤油、調味料 瓶詰め製造・販売



経営革新



### 企業の現状及び支援の経緯

岡谷の気候風土を生かした昔ながらの手造り仕込みと地元産原料にこだわり、安心安全で美味しい味噌造りに取り組む味噌蔵です。国産無添加味噌は品評会でも高評価を受け、環境や健康に配慮した有機商品に力を入れています。

味噌業界の実情として、日本人の食生活の変化により味噌離れが進んでいるほか、大手製造メーカーのシェアが非常に大きく、価格競争で不利な小規模の味噌蔵が相次いで廃業せざるを得なくなっています。

そのような状況の中、創業90年という長きにわたって愛されてきた喜多屋醸造店を、現代表の娘2人で事業承継する意志を固め、有機栽培原料にこだわった新ブランドを立ち上げ、PRなど精力的に活動されています。

今後を見据えた喜多屋醸造店のブランディング、味噌姉妹としてのブランディングなどについてご相談を受ける中で、「自然と。有機米みそ」ブランドの新商品(赤味噌)に関するクラウドファンディング挑戦も支援させていただくことになりました。

### 実施した支援内容

クラウドファンディングプラットフォームであるCAMPFIREのプロジェクトページにおいて、取り組み内容や商品の魅力が、味噌に詳しくない人にもより伝わり、感情に訴え購買動機に繋がりがりやすくなるような説明の構成、文章、写真などについてアドバイスをさせていただきました。

リターンについては、少しでも高額な支援が集まりやすい価格設定、また小分けで新鮮に味わえる分量のセットなどを提案しました。

さらに、アナログで支援を集めるためのチラシについても、QRコードでプロジェクトページにアクセスする前に、チラシを見るだけで取り組み内容がわかるような表記をアドバイスさせていただきました。

### 支援の結果及び今後の展開等

同店の味噌愛好者や姉妹を応援する方を中心に、多くの支援を集め、目標金額30万円は開始後わずか2日で達成することができました。その後、今後のブランド展開や販路拡大を見据えたオンラインショップ立ち上げのためのネクストゴール170万円を目指し、最終的には180万円超の資金調達に成功しました。今後も、既存商品の認知向上や味噌姉妹のブランディング、新商品開発など、総合的に継続支援をさせていただきたいと考えています。



### 支援を受けて

長峰 愛氏

クラウドファンディングで達成経験のあるコーディネーターから、客観的な意見を聞けたり、文章等の表現でプロ視点のアドバイスを受けられたことで、プロジェクトページを見る人に、より伝わりやすくなったと思います。リターンも、より利用者目線に立ったものにすることができました。

### 担当部署

### 長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

事業者 **ruteyu(ルテュー)**

●代表者/山崎 敬輝 ●所在地/茅野市米沢41-1(サンサイド14 1F) ●従業員数/5名  
●連絡先/0266-55-2775 ●URL/https://www.instagram.com/ruteyu0925/

事業内容 パンの製造・販売

企業の現状及び支援の経緯

大手ベーカリーで30年に渡り腕を磨いた店主が、手間を惜しまず理想のパンを提供するお店を令和4年9月に開業しました。開業後、Instagramを活用して集客を行っていましたが、効果的に活用できず、売上が当初の計画より下回る状況でした。そのような中で金融機関からの紹介を受け、相談に至りました。



・新規の顧客に対するPRが課題

既存顧客のリピート率は良好でしたが、新規顧客の拡大が見られませんでした。そこでSNSを確認したところ、定期更新ができておらず、Instagramを有効的に活用できていませんでした。フォロワーを増やして新規顧客に繋がられないことが課題でした。

実施した支援内容

・Instagramの改善

定期的な投稿を行うために固定のハッシュタグや定型文を提案しました。その後、効果的なハッシュタグの使い方

や取り入れ方について支援を行いました。2人で切り盛りしているということもあり、Instagramの更新に割ける時間が限られているという課題がありました。そのため、時短につながるよう定型文の掲載やハッシュタグの固定など、時間の短縮につながるよう提案を行いました。また、Instagramを外部露出するためにGoogleプロフィールへの掲載を提案し、認知度向上のアドバイスを行いました。

支援の結果及び今後の展開等

・Instagramのフォロワーが急増

タグの活用と定期的な投稿を行うことによってフォロワーが250人増加しました。Instagramを見て来店される顧客が増えて、コミュニケーションの幅も広がりました。またInstagramの投稿をきっかけに雑誌等のメディアから取材も増えており、メディアを通じてさらに来店顧客数も増加しました。



支援を受けて

店主 山崎 敬輝 氏

Instagramの効果的な活用方法を理解し、投稿することによってフォロワーや来店数が増加して嬉しく思います。お客様とのコミュニケーションも増えて、売り上げも伸びてきています。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里1-18-1(長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

Instagramでの集客支援の結果、フォロワー&来店客が増加!

活用した補助金・支援制度等

よろず支援拠点事業

## 事業者 民宿 松尾

- 代表者/林 千代子
- 所在地/木曾郡木曾町福島字松尾3221
- 従業員数/5名
- 連絡先/0264-22-2826

事業内容 宿泊業



## 企業の現状及び支援の経緯

同民宿は昭和49年に創業し、これまで50年近くにわたり白色での申告を行っています。申告にあたっては、日々現金出納帳を作成し、それに基づいて各科目に分類して収支内訳書を作成しています。現状、青色申告に切り替えることにより、特別控除として所得から10万円または55万円以上（最高65万円）の控除を受けることが可能です。ただし55万円以上の控除を受けるには、正規の簿記により作成された貸借対照表と損益計算書の作成が必要となります。手書きによる会計処理では簿記の知識が必要であり手間がかかることなどから、これまで青色申告への移行を躊躇していました。そこで、青色申告特別控除以外のメリットについても詳しく説明し、さらにパソコン会計導入による記帳の便利さについて詳しく説明することにより、関心を高めていただきました。

## 実施した支援内容

パソコン会計導入にためらいを感じていることから、会計ソフトを使い、実際の経理処理の仕方についてパソコン画面を見ながら説明しました。現金出納帳を開いて一つの取引を入力するという簡単な操作により、同時に複式簿記により相手科目帳簿にも反映される状況を見てもらうことで、これまでの手書きによる処理と比べパソ

年月日	種別	内容	金額	科目	金額
05/08	110	借入金	200,000	借入金	200,000
05/20	111	売上	200,000	売上	200,000
05/20	112	売上	200,000	売上	200,000

仕訳日記帳のデモ画面

ン会計ソフトの利便性を理解していただきました。さらに、決算書の作成や減価償却の計算などの簡便性と数字の正確性などについての理解が得られ、また、導入後のサポートについても、メーカーや販売代理店に加え、青色申告会や商工会の記帳指導も紹介しました。

## 支援の結果及び今後の展開等

令和5年分の確定申告は白色申告で行いますが、経理処理は手書き帳簿と並行してパソコン会計による処理を行い、令和6年分は青色申告に切り替え、パソコン会計による帳簿の作成を目指しています。導入に向けてはメーカーのサポートもありますが、県内の弥生製品の販売店から気軽にサポートを受けられる仕組みを紹介し、青色申告会や商工会の支援もあることから導入に向けての不安を軽減することができました。

## 支援を受けて

代表 林 千代子 氏

実際にパソコン画面を見て、より具体的な会計処理の方法や説明を受けることができ、導入に向けて大に関心を持つことができました。（県内の弥生製品の販売店の「友の会」に入会）パソコン教室で会計ソフトを勉強し、パソコン会計による申告を行いたいと考えています。

## 担当部署

## 長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1（長野県工業技術総合センター 3階）  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

## 事業者 (株)上野石材商会

●代表者/竹内 哲也 ●所在地/上田市福田10-1  
●従業員数/6名 ●連絡先/0268-22-2268 ●URL/http://ueno-sekizai.co.jp/

事業内容 墓石等の石材の加工、販売、施工

## 企業の現状及び支援の経緯

同社は、長野県上田市において墓石加工・販売の石材店として創業しました。2015年に法人化し、2016年に現在の代表取締役である竹内哲也氏が就任しました。事業内容は、墓石加工・販売を中心に、ペットの墓石等の加工販売、墓地の土木工事、耐震補強等のお墓のリフォーム等、墓石関連の多数サービスを展開しています。地元建設会社からの紹介もあり、建築石材の取り扱いも行っています。

最近、特に力を入れているのが、地元浅間山の溶岩石を用いた関連商品の開発です。商標化の検討のためにINPIT 長野県知財総合支援窓口のアドバイザーが継続的に支援しており、そうした中で商品開発・事業化に活用できる国、県等の支援施策の紹介と活用促進のため、当機構も支援を行うこととなりました。

## 実施した支援内容

最初の商品として「タイル」を販売していましたが、寸法精度や広報手段に課題がありました。そのため、当社では自動で位置決め・切断ができる機械や詳細情報が掲載され、購入もできるECサイトを導入することを検討し、事業再構築補助金の申請を希望しました。当機構は認定経営革新等支援機関として、事業計画策定を伴走支援し、事業再構築指針への合致の確認やSWOT分析などを一緒に実施しました。

その結果、無事に採択され、設備等が導入されましたので、当社では具体的な拡販を図るべく、顧客候補へのサンプル発送、各種媒体への掲載促進、強みを活かした販路開拓



導入した切断機



浅間山溶岩石タイル

拓手法の習得などに取り組んでいます。当機構は機構内外の補助金や専門家支援等の各種施策の活用を継続的に伴走支援しています。

## 支援の結果及び今後の展開等

各種支援の結果、2023年度のタイルの売上は、これまでの数倍となる見込みです。ECサイトを閲覧しての問い合わせのほか、サンプル発送した先からも、「今後、新たな建築物件があった際は活用したい」との好意的な反応をいただいています。これにより、引き続き広く知っていただくための活動を展開していくとともに、商品ならではの強み(審美性、物語性、蓄熱効果等)を活かした営業活動を通じて、継続的な取引に繋がりが得る顧客を確保していきます。



発送するサンプル

## 参画機関

- INPIT 長野県知財総合支援窓口((一社)長野県発明協会)
- 独立行政法人中小企業基盤整備機構

## 支援を受けて

代表取締役 竹内 哲也 氏

事業計画書の作成を通して、客観的な視点で新事業と会社を見つめ直すことができました。さらに、実現性の高い計画が策定できたことで、事業再構築補助金の採択も受けることができました。拡販に当たっても各種の取組方法や支援策をご紹介いただき大変ありがたいです。これらを活かし、浅間山溶岩石を用いた各種商品の開発・事業化に継続的に取り組んでまいります。

## 担当部署

## 企画連携部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5803 [FAX] 026-226-8838 [Email] renkei@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

イノベーション創出事業

事業者 (株)レヂトン

●代表者/山下 禮司 ●所在地/大町市常盤2280-1(本社:東京都新宿区)  
●従業員数/110名 ●連絡先/0261-22-2757 ●URL/https://www.resiton.co.jp/

事業内容 研磨、研削、切断工具の製造・販売



大町工場

企業の現状及び支援の経緯

同社は、「技術と信頼性」を最優先に掲げ、安全な切断砥石（ディスクグラインダーのディスク）をはじめとする研削・研磨工具の製造販売を行っています。また、積極的に新しい製品の研究開発にも取り組んでおり、これらの取り組みが功を奏し、現在では国内においてシェア第1位の実績を築いています。

しかし、近年では、海外メーカーの高性能製品との競争が一段と激しくなっています。この厳しい状況に対応するため、より革新的で高性能な製品の開発が不可欠となりました。そこで、同社は、当機構のサポートを受け、新製品の研究開発を進めることとなりました。

実施した支援内容

●補助金による支援  
当機構の補助金を活用し、試作および評価に必要な資金をサポートしました。



製品ラインナップ



1次開発品：純金

●材料メーカーとの協働による材料選定

材料メーカーと緊密な連携を取りながら、最適な材料の選定について助言を行いました。

●2段階の性能向上・商品化

開発計画の策定において、2段階の性能向上と開発を行い、それぞれの段階で商品化を提案しました。

●中小企業基盤整備機構の経営相談の利用

営業戦略に関して、中小機構の経営相談を活用することを提案し、開発品の円滑な市場提供をサポートしました。

●協力企業の紹介と連携

製造技術開発においては、協力できる固有技術企業や自動化開発企業を紹介し、連携を強化しました。

●プロジェクト会議の設立

連携企業、地域センター、長野県発明協会などを巻き込んだプロジェクト会議を設立し、様々なアイデアや経験を取り入れながらプロジェクトを推進しました。

支援の結果及び今後の展開等

1年目、他社にはない基本技術を駆使し、1次品を開発したところ、その評価の結果、耐久性で従来品の4.6倍、海外製品の1.6倍を実現し、商品化に成功しました。

2年目以降、更なる性能向上を見込んでいる2次開発品においては、製造技術が複雑であり、各種実験で試行錯誤しながら基本技術を高度化させました。この技術を量産に向けた生産技術へと昇華させるため、プロジェクト会議を通じて、さらに議論を深めています。

来年には、量産を目指しており、目標性能は前述の開発品の1.5倍以上となる、海外の高性能製品をもしのぐ製品化を目指します。

支援を受けて

技術部長 仁科 貞敬 氏

新製品を開発するにあたって「開発コストの捻出」が企業課題でしたが、本事業のサポートを受けることにより、開発を進めやすい環境を整えることができました。プロジェクト会議の開催では、自社以外の技術者からのアドバイスや議論が活発的で刺激的なものがあり、2次開発品での高性能化の原動力となっています。

担当部署

企画連携部

〒380-0928 長野市若里1-18-1(長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-227-5803 [FAX] 026-226-8838 [Email] renkei@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

イノベーション創出事業、  
長野県発明協会による特許、商標出願支援

事業者 飯田ポリッシング(株)

- 代表者/塩沢 広志 ●所在地/飯田市中央通り2丁目2番地
- 従業員数/7名 ●連絡先/0265-48-8687 ●URL/https://iida-polishing.jp/

事業内容 プラスチック加工、ドローン事業、農業関連事業



飯田ポリッシング株式会社外観

企業の現状及び支援の経緯

同社は、長野県飯田市において、計量器等向けのプラスチック、金属研磨加工を行う企業であった「飯田機械金属工業株式会社」から事業承継を受け、2018年に設立しました。事業内容は、前述のプラスチック、金属の研磨加工のほか、昨今ではドローンの関連事業（農業散布、空撮、物流、ドローンの操作教育など）や、農業向け事業（遠隔監視装置の販売等）へと事業を拡大しています。

特に農業向けの事業においては、市田柿の製造工程のうち硫黄燻蒸工程と乾燥工程について、遠隔監視を行うシステムの開発・事業化に着手しました。地元の機器開発企業やシステム開発企業と連携して取組を進めるにあたり資金が必要であることから、当機構のイノベーション創出事業への申請を希望していました。

実施した支援内容

開発に当たり、まずは資金の調達が必要であることから、イノベーション創出事業により、以下の費用を補助しました。

- プロトタイプの開発・実証
- 開発機器（硫黄燻蒸下でも狂わず測定できる温湿度計、水分量を自動計測できる重量計）の特許出願
- 営業活動 等

支援を受けて

代表取締役 塩沢 広志 氏

イノベーション創出事業による資金支援や人的支援、南信州・飯田産業センターの皆様の支援により、無事、販売を開始することが出来ました。ありがとうございます。今後も、更なる売上拡大や機器・システムの開発に取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

担当部署

企画連携部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1（長野県工業技術総合センター 3階）  
[TEL] 026-227-5803 [FAX] 026-226-8838 [Email] renkei@nice-o.or.jp

このほか、専門家による支援として、以下を実施しました。

- INPIT 長野県知財総合支援窓口の協力を仰ぎ、弁理士も交えて2件の特許を出願
- 機器のうち水分量を計測する装置について関連法令の情報を提供
- 販売開始後のビジネスモデルを検討するため、長野県工業技術総合センターのAI、IoT関連の専門家を招へいして助言を得た



開発した遠隔監視装置

支援の結果及び今後の展開等

各種支援により、2023年の市田柿の製造のタイミングに間に合うよう販売を開始しました。飯田地域の数十件の農業者から注文を受け、鋭意、機器のセッティング、操作説明等を行いながら販売しています。一方、当初計画に対し更なる売上拡大が期待できることから、更なる認知度向上と営業活動が求められます。また、将来的には、遠隔監視した結果に基づく硫黄燻蒸工程や乾燥工程の自動化が期待されることから、新たな機器・システム開発が必要となっています。



装置の設置風景

参画機関

- INPIT 長野県知財総合支援窓口((一社)長野県発明協会)
- 公益財団法人南信州・飯田産業センター



活用した補助金・支援制度等

専門的コーディネーターによる伴走的支援事業

**事業者** ファミリー・サービス・エイコー(株)

●代表者/石田 幸司 ●所在地/長野市居町43-1  
●従業員数/48名 ●連絡先/026-259-3101 ●URL/https://fs-eiko.co.jp/

**事業内容** 医療機器・オーラルケア製品・洗浄器等の企画・開発・製造**企業の現状及び支援の経緯**

同社は、磁気治療器などの医療機器、歯ブラシなどのオーラル製品、そのほか浄水器やシャワーヘッドなど、ヘルスケア関連製品に新しいアイデアを取り入れている開発型企業です。

信州医療機器事業化開発センターでは、令和4年7月に大町市の北アルプス広域消防本部の救急救命士から、医療的ケア児(※)が在宅療養中のご家庭において、骨折しやすい医療的ケア児を災害時に搬送する手段が無く、迅速な避難ができないという課題をいただきました。

そこで、真空成形型式副木などのエアバックを応用した医療機器の製造・販売に実績のある同社と救急救命士と共に在宅療養中のご家庭を訪問してニーズをお聞きし、医療的ケア児を安全、迅速に搬送可能な器具の開発に取り組むことになりました。

(※) 医療的ケア児：NICU(新生児特定集中治療室)等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な子どものこと。



在宅療養家庭における搬送器具の仕様検討の様子

**実施した支援内容**

信州医療機器事業化開発センターでは、医工連携プロジェクトマネージャーが中心となって、マッチングから開発、販路開拓に至るまで総合的に伴走支援を行いました。

- ・医療的ケア児が在宅療養中のご家庭のニーズと、同社の製品化技術をマッチング
- ・広域消防本部の救急救命士と協力し製品仕様の検討
- ・医療的ケア児の診療を専門とする長野県立こども病院を紹介し、試作品への助言と評価
- ・医療的ケア児向けの介護・福祉機器を販売する医療機器販売業者とのマッチング

**支援を受けて**

取締役専務 小川 宏氏

ご支援をいただいた効果として、これまで知見の無かった医療的ケア児などの障がいを持つ子どもやそのご家庭のニーズに触れることができ、まだまだやらなければならないことが山積みであることが認識できたこと、在宅療養家庭の皆さんと広いネットワークを持つ県の医療的ケア児等支援センターや支援団体、信州大学医学部小児医学教室、販売業者の方々とマッチングしていただき面識ができたこと、支援いただいたプレスリリースによりテレビ放映や新聞報道をしていただき当社の活動を広く周知できたことが挙げられ、大きな成果が得られました。

**担当部署**

信州医療機器事業化開発センター

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] med@nice-o.or.jp



STEP1 体型に合わせて吸引

STEP2 肩掛けベルトを持つ

STEP3 肩に掛ける。

搬送器具の使用方法

- ・商品化に関するプレスリリース支援
- ・救急医療の国際学会「EMS Asia 2023」併設の企業展示会やその他の国内展示会への出展支援

**支援の結果及び今後の展開等**

医療的ケア児等の重い障がいを持つ子どもたちは、動きが少ないために骨の未発達や栄養上の問題、薬剤の影響等で骨がもろく骨折しやすい状態にあります。新たに開発した搬送器具「ボディーフィットストレッチャー」は、このような子どもを安全に搬送するための器具であり、本品から空気を抜くことによって体に合わせて器具の形状を保持し、持ち上げた際に骨にかかる負担を小さくすることが可能です。

医療的ケア児等の在宅療養家庭や病院、福祉施設などにおいて災害などにより緊急な避難が必要とされる場面で、対象者への負担を最小限にして安全、迅速に搬送することが可能になりました。

今後は、成長した子どもや成人用の搬送器具もラインナップして、より多くの障がい者を対象とした搬送を可能とすべく開発支援を継続していきます。

**参画機関**

- 北アルプス広域消防本部 ●長野県立こども病院
- 信州大学医学部小児医学教室



搬送器具記者会見の様子

活用した補助金・支援制度等

令和2年度医療機器開発等支援補助金(ステント)  
専門的コーディネーターによる伴走的支援事業(生検針)  
プロデュースによる事業化促進事業

事業者 **高島産業(株)**

- 代表者/小口 武男 ●所在地/茅野市金沢5695-6
- 従業員数/240名 ●連絡先/0266-78-8825 ●URL/https://www.takashima.co.jp/

事業内容 医療機器製造、精密挽物部品製造、精密研磨、IC ウェハ研磨、電子機器組立、機器設計製作

企業の現状及び  
支援の経緯

同社は、金属、セラミック等の高精度微細加工技術をコアテクノロジーとして、時計部品、半導体関連の精密微細加工等を主要事業としており、近年ではレーザー加工技術、表面処理技術、難加工材の加工技術を強みとして多くの医療機器開発に挑戦中です。

ステントは669億円の国内市場の内、輸入率は64.4%(2015年厚生労働省薬事工業動態調査)にのぼっており、他の医療機器同様に国産化が望まれています。大腸ステントは大腸の狭くなった部分を広げる目的で適用されますが、大腸の大きな動きに追従する必要があり、変形に対する耐久性と拡張力が求められます。

脳腫瘍の検査のために組織を採取する脳生検術は、従来方法では低侵襲性と高い診断能力の両立が困難でしたが、信州大学において開発されたボーリングバイオプシー法はその両立を実現しました。この優れた方式を臨床で広く応用していくために、医工連携体制のもとで同社により生検針「ボーリングバイオプシーニードル」が開発されました。



ボーリングバイオプシーニードル外観

実施した支援内容

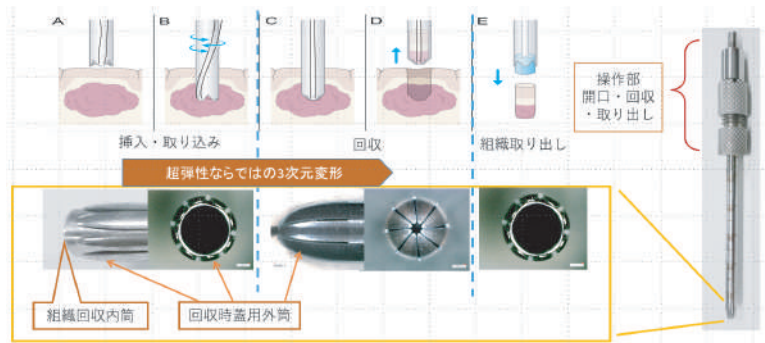
当機構では、開発費の助成を中心にした開発支援、展示会等による販路開拓支援を行いました。

- ・大腸ステント開発費の助成(補助金交付)
- ・ボーリングバイオプシーニードル開発試作費の助成(補助金交付)
- ・国内展示会への出展支援(日本内視鏡外科学会、諏訪圏工業メッセ、等)
- ・医療機器の設計・製造に関する展示会「Medtec」におけるイノベーション大賞への申請支援

支援を受けて

開発部 開発課 係長 佐藤 洋氏

大腸ステントは、金属材料の結晶組織レベルでの評価と、耐久試験により破断メカニズムの解明を進め、従来品より高い耐久性を実現できる加工条件が究明でき、国産化に目途が立ちました。  
生検針は、脳内の健常組織や血管を不必要に傷つけることなく、脳表面から腫瘍までの組織を連続的かつダメージ無く採取することができるようになりました。他分野の生検手技への応用もできそうです。



ボーリングバイオプシーニードル使用方法

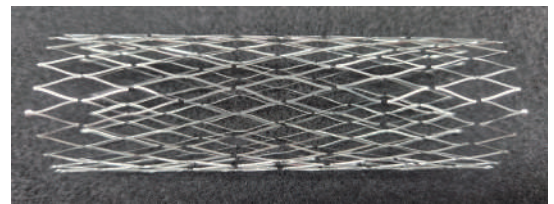
- ・コンサルティング会社の伴奏支援による事業化戦略策定支援

支援の結果及び今後の展開等

大腸ステントは、大腸の大きな動きに伴う変形に耐え得る高耐久性を実現する加工条件を最適化し、大腸の動きを模擬した耐久性試験を行った結果、海外製の従来品と比較して2.5倍以上の耐久性があることが確認できました。また、製造工程、品質保証体制を整えて医療機器製造業として量産可能になりました。

生検針は、医療機器の設計・製造に関する展示会「Medtec」(後援：経済産業省等)におけるイノベーション大賞入賞6社の中で「チャレンジ賞」を受賞し、医工連携による医療機器創出の成果が認められました。

また、事業化戦略策定支援により、同社の医療機器事業の立ち位置を明確化し今後の展開について方向性を示唆することができました。



大腸ステント外観

参画機関

- 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構
- 信州メディカル産業振興会

担当部署

信州医療機器事業化開発センター

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] med@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

成長型中小企業等研究開発支援事業  
(R4～R6年度Go-Tech事業：経済産業省)

事業者 (株) Henry Monitor

- 代表者/小松 隆史
- 所在地/諏訪市四賀桑原942-2
- 連絡先/050-3200-1206
- URL/https://henrymonitor.com/

事業内容 磁界式センサーの開発

企業の現状及び  
支援の経緯

同社は、「磁界式センサーを用いて見えないものを測る」をスローガンに、農業や金属加工技術にセンサー技術を取り入れる事業を展開しています。この技術を応用して、農業用の土壌の分析は多大な時間と費用がかかることから、従来農家の勘に頼っていた施肥を始めとする土壌管理を、畑を耕しながら無機成分がどれくらい含まれるのかなど同時に分析を行い、それを作物管理に生かすシステムの開発を信州大学と共同研究してきました。この内容について、令和4年度の成長型中小企業等研究開発支援事業(以降「Go-Tech事業」)への申請の相談を受け支援してきました。現在本事業に採択され事業化に向けて伴走支援をしています。



実施した支援内容

信州大学の井上農学博士の知見と同社の磁界式センサーの知見を合わせてトラクターに搭載して即時に土壌の分析をする開発をGo-Tech事業の事業管理機関として伴走支援しています。今年度はトラクターの搭載と並行して手持ち式の測定器も開発し、諏訪圏工業メッセでも成果の展示を行いました。圃場で実際に施肥と成果物の糖度の関係を測定器で分析できることが分かり、事業化に向けてデータの信憑性を証明できました。

支援の結果及び今後の展開等

現在、研究開発中ですが、JAからは「農業指導にこのデータを使いたい」という意見があり、大手食料販売企業からは「土壌のデータを作物の保証として高付加価値をつけていきたい。」との要望が寄せられています。今後は、更に大きな枠組みで農業を多角的に分析し、高付加価値作物を作るべく共同研究開発を推進し、さらに支援をしてまいります。

参画機関

- 国立大学法人信州大学

支援を受けて

代表取締役CEO 小松 隆史 氏

実際に農業を展開している機関（JAなど）だけでなく食品会社などいろいろなところから問い合わせが来ていて広がりを感じています。さらに横展開もできそうになってきました。

担当部署

グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] green-innv@nice-o.or.jp



## 事業者 (株)小松精機工作所

●代表者/小松 滋 ●所在地/諏訪市大字四賀942-2  
●従業員数/290名 ●連絡先/0266-52-6100 ●URL/https://www.komatsuseiki.co.jp/

事業内容 精密プレス部品一貫製造、各種精密機械部品製造、難削材の切削・研削加工

### 企業の現状及び支援の経緯

同社は、主に自動車のエンジン部品を製造する精密機械部品加工メーカーであり、特にステンレス系難削材の加工が得意で、超微細で高精度な製品をお客様に提供しています。現在、カーボンニュートラルの実現が急務となっていますが、同社もその実現に貢献するため、環境への配慮を重視し、新たな技術を開発しています。一般的に使用されるモータのコア材（電磁鋼板）に比べ、アモルファスはエネルギー損失が1/10であり、高速回転時の損失上昇が大幅に抑えられることは知られていません。しかしながら、アモルファスの製造は電磁鋼板の加工方法（打ち抜きプレス加工+積層）では作製が困難であり、これにより量産には不向きな加工法に制約され、モータのコア材として広まっていませんでした。そのため、同社はアモルファスの金型技術の開発に取り組んでいました。

※アモルファスとは、原子が規則正しく並んだ結晶とは異なり、原子が不規則に配列した非晶質構造のこと。

### 実施した支援内容

同社は令和4年にアモルファスの打ち抜きに関する特許を取得しており、これにより独自の技術を有しています。しかしながら、既存の積層技術ではモータのコア材料を

複数枚積層して製造することが難しく、この課題に対処するため、アモルファスを用いたモータのコア製造方法について、ゼロカーボン技術事業化支援補助金を活用していただきました。

### 支援の結果及び今後の展開等

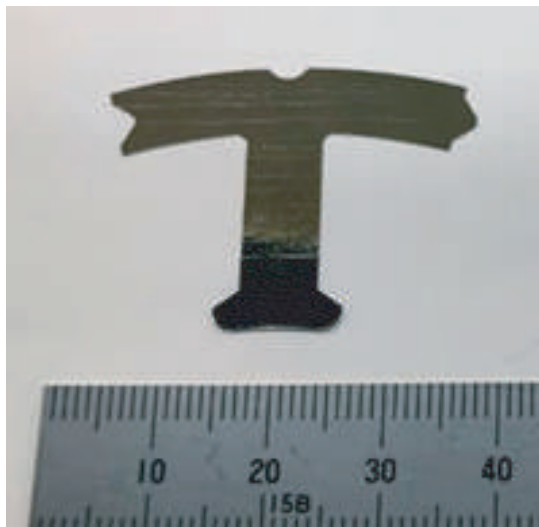
補助金を活用して、研究開発した金型内でモータコア材料を積層する技術に関する特許を出願し、アモルファス積層コアの性能を実現するため、小型EVなどにも搭載可能な出力5kWクラスのアモルファス積層コアを使用したブラシレスDCモータを開発しました。

本モータは、大同大学（愛知県名古屋）加納善明教授との共同研究により、アモルファス積層コアの性能を最大限に生かすモータ設計が行われ、(株)明和製作所（福岡県糸島市）などとの協力により、効率的な巻き線およびモータの組み上げが実現しました。

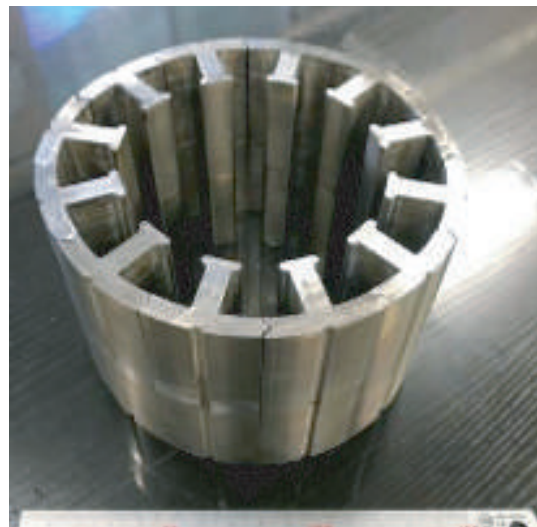
その結果、5kWクラスのモータでは世界最高レベルの95%のモータ効率を達成し、同等出力のモータに比べてモータ効率を5%~10%改善し、出力密度も1.2kW/kgに達しました。

今後、カーボンニュートラルの実現を達成し得る日本初のキラーコンテンツとするため、アモルファス積層コアを活用した次世代高性能モータの開発について、引き続き支援してまいります。

高効率モータ向け「アモルファス積層コア」の開発を補助金で支援



プレス打抜きしたティース形状



積層分割コア（12ティース）

### 支援を受けて

専務取締役 小松 隆史 氏

研究開発した技術が実証できたことで、取引先からの引き合いが増えました。また、川下企業にサンプル提供を行ったことで事業化にも結び付きました。今後も事業拡大を目指し、取組を進めてまいります。

### 担当部署

#### グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1（長野県工業技術総合センター 3階）  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] green-innv@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

- ・コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業補助金
- ・ものづくり大賞NAGANO2023への推薦

## 事業者 (株) AB.do

- 代表者/小平 つな子
- 所在地/長野市三輪5丁目41番23号
- 従業員数/43名
- 連絡先/026-235-1157
- URL/https://www.ab-do.jp/

事業内容 高次元・高精度な3D点群データの再現技術

### 企業の現状及び支援の経緯

昭和43年、有限会社第一測量設計コンサルタントとして設立し、平成29年には、株式会社AB.doに社名変更しました。Active（能動的）Brain（頭脳）do（行動！）に由来しています。顧客との測量検証から2次元、3次元データにおける歪み等の不具合が検知されたことから平成29年より信州大学工学部と共同研究「高精度3次元情報の再現技術と応用」を開始し共同特許登録技術により、長野県、長野市の助成事業などにより技術応用、社会実装を展開中です。令和3年度コンソーシアム活用型ITビジネス創出支援事業補助金の募集開始を機に産学官連携による課題解決の相談があり、事業申請書をベースとした計画立案からの支援となりました。事業化のために、まず基幹事業「測量」の強みを生かした自社分析から行い、顧客の要望までを見据えた市場分析から開始しました。

### 実施した支援内容

新規事業立案にあたって、縦軸「技術」と横軸「アプリ（適用業務）」が交差している事業へどのようにフォーカスするかを産学官連携コンソーシアムによる共創エリアから検討しました。その結果、2次元技術の応用からデフォルメされた観光地図と災害対策用ハザードマップの共用という観光、防災連携が生まれました。また長野県工業技術総合センターの高速AIプロセッサによる解析技術を活用して開発した3次元補正技術を応用することで実現したナウマンゾウ化石など埋蔵文化財の精度担保保証から観光推進、地域活性化という新付加価値も生まれました。縦軸と横軸を意識した事業領域の変遷、多角化展開によ



2次元3次元データの先進的な利活用

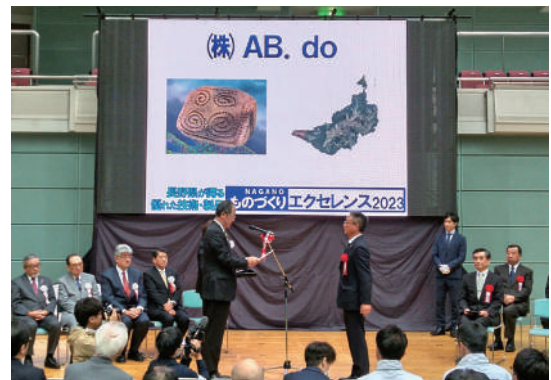
り令和4年度、5年度のコンソーシアム活用型ITビジネス創出事業補助金にも採択され、新たなコンソーシアムも始まっています。

### 支援の結果及び今後の展開等

令和5年9月には、「高精度3次元情報の再現技術と応用」シンポジウム～革新的なIT技術による文化財・防災・観光DXへ～を信大工学部田中・エルナン研究室、長野県、（一社）信州産学みらい共創会、長野県産業振興機構、各企業の協賛により開催し、産業DXの事業化について討議しました。また「産業フェアin信州」においては、これまでの活動が評価され「NAGANOものづくりエクセレンス2023 DX部門」の認定を受け知名度も向上しました。今後、産学官連携スキームをさらに強固にして、信州の特長を生かした産業DXを推進します。



NAGANOものづくりエクセレンス2023認定証



ものづくりエクセレンス表彰 産業フェアin信州

### 支援を受けて

代表取締役専務 青木 勝彦 氏

事業計画の立案にあたっては、自社の強みを生かした市場分析の考え方や産学官連携推進についてのアドバイスにより、効果的で実現性が高い事業になり、産業DXを展開中です。ご支援、大変感謝しております。

### 担当部署

#### ITバレー推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1（長野県工業技術総合センター3階）  
[TEL] 026-217-1635 [FAX] 026-226-8838 [Email] it-valley@nice-o.or.jp

Case  
20

技術・製品開発

「ワンちゃんにもあげられる」県内初！商品誕生ストーリー

活用した補助金・支援制度等

消費財マーケティング力強化事業  
消費財国内販路開拓支援事業(長野県産品商談会・  
おいしい信州ふーど発掘商談会)

事業者 go.goat(ゴーゴート)

- 代表者/八木一美 ●所在地/長野市鶴賀370-5
- 従業員数/2名 ●連絡先/070-9039-7068 ●URL/https://instagram.com/chilltsuma?r=nametag

事業内容 犬と一緒に食べられる食品の製造販売



### 企業の現状及び支援の経緯

令和4年10月、同社は規格外の地域食材を使用した「ちょっと贅沢な一皿」をコンセプトに、冷凍のおつまみや惣菜の販売でスタートしました。

春先にキャンプ場で試食販売をした際に、愛犬家の「ワンちゃんと一緒に食べたい」という声にヒントを得て、犬と一緒に食べられる新たな商品を考案し、6月の長野県産品商談会に参加しました。

出展時には「冷凍品ではなく、常温品だったら良いんだけどね」という要望をバイヤーから多数いただいたため、代表者から常温商品の開発に是非協力して欲しいと打診があり、ペットフードではない「ワンちゃんにもあげられる」常温食品の開発支援を行いました。

### 実施した支援内容

常温商品の加工技術に関しては、長野県工業技術総合センター加工食品部を紹介しました。同センター担当者の支援の下、りんごのドライフルーツ2種とじゃがいものニョッキ種を開発しました。

特にりんご製品のひとつである「ヴィンテージアップル」は、賞味期限が180日という優れた優位性を備え、独自の製造方法で長期熟成させた芳醇な味わいが特徴で、今までのドライフルーツにはない食感と味わいを実現しました。また、ドッグフードではなく「犬と一緒に食べられる食品」は県内で前例がなかったため、INPIT 長野県知財総合支援窓口のアドバイザーに相談し、「ワンちゃんにもあげられる」というフレーズを商標登録するよう、アドバイスを受けました。

その結果、県内初の「人と愛犬が一緒に味わうことができる」商品が誕生したことが話題を呼び、11月上旬には信濃毎日新聞にも掲載されました。

### 支援の結果及び今後の展開等

12月にパッケージを一新し、新商品の販売がスタートしました。

9月のおいしい信州ふーど発掘商談会 in東京で成約した東京の高質スーパーマーケットに、卸会社を通じての取引が開始となりました。

また、6月の長野県産品商談会で成約



した既存取引先にも、継続して常温商品のお取り扱いをいただいています。今後も精力的に、ペット同伴可能な県内観光地やドッグランのあるカフェ、高速道路のSA・PA、駅や空港の売店など、ターゲットを絞り込んだ販路拡大を支援していきます。

### 参画機関

- 長野県工業技術総合センター食品技術部門
- INPIT 長野県知財総合支援窓口((一社)長野県発明協会)



### 支援を受けて

代表 八木一美氏

常温の商品開発に関しては未経験で知識が無い中、知財や加工技術の専門家をご紹介いただき、親身に相談に乗っていただきながら商品を完成することができました。更なる販路拡大を進められることに心から感謝しております。

### 担当部署

#### マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5 階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

支援機関の連携によるイノベーション創出事業  
(アルプス広域コーディネーター連絡会議)

## 事業者 (株)はやしや

●代表者/松田 好功 ●所在地/松本市和田南西原4010-28  
●従業員数/1,582名 ●連絡先/0263-48-0255 ●URL/http://www.d-hayashiya.co.jp/

事業内容 調理食品の企画開発と製造、セブンプレミアム惣菜を代表とするOEMの調理食品製造

企業の現状及び  
支援の経緯

当機構では長野大学企業情報学部の森教授の企業イノベーションプロジェクトに賛同し、新製品や新規事業に意欲的に取り組まれようとしている企業を紹介してきました。このプロジェクトは、学生が企業の取組に共同参画し、新しいコンセプトや商品開発をすることにより、双方に有益な体験と情報をもたらす産学連携事業です。2022年にアルプス広域コーディネーター連絡会議のメンバーである松本ものづくり産業支援センターから、新たな商品開発に取り組もうとしていると同社の課題をお聞きしました。そこで、長野大学の森ゼミの活動を紹介したところ、双方のニーズが合致して令和5年度にプロジェクトとしてスタートすることになりました。当機構の保有する学のシーズ情報と松本ものづくり産業支援センターが保有する企業ニーズを結び付け、連携することにより実現した支援となりました。

## 実施した支援内容

年初に両者の懇談会が開かれ、同社から「企業ブランディングに繋がるようなECで販売する商品のアイデアと顧客への伝え方を考えてほしい。“製品を通じて顧客を笑顔に”を実現してほしい」とのテーマ説明がなされました。これを受け、森ゼミでは6チームで「ありたい姿、コンセプト、ターゲット、商品案」を検討し、同社との個別ミーティングや中間発表会を実施する中で提案のブラッシュアップを図りました。最終発表会では、斬新な提案が多数披露され、企業側もそれぞれの発表に対して真摯なコメントを返し、充実した報告会となりました。当機構ではプロジェクトの立ち上げを支援し、懇談会や発表会に参加しながら、活動を支援しました。



企業の説明と懇談



コンセプトや製品の考案



中間発表会



最終発表会

企業イノベーションプロジェクトの様子

## 支援の結果及び今後の展開等

同社はゼミ生からのアイデア提案を受け、現在、新商品の開発に取り組んでいます。また、長野大学森ゼミとの継続プロジェクトを2年次にわたり、展開しています。さらに、当機構主催の「産学官連携交流会」において、同社の飯村会長より本プロジェクトの取組事例のご講演をいただきました。参加された企業の皆様にとっては、産学連携の良い参考事例となり、会場の展示ブースでの商品展示を行い、来場者に商品アピールができました。



講演会で展示した商品

## 支援を受けて

取締役会長 飯村 和生 氏

弊社は、今回のようなニーズやコンセプトから入る商品開発の取り組みは初めてでした。学生の皆さんも、最初は抽象的な課題に戸惑っておられるようでしたが、発表会とフィードバック及び弊社開発社員との個別のやりとりを重ねる中で、固定概念にとらわれない斬新なアイデアがいくつも生まれ、大変実りの多い取り組みであったと思います。

## 担当部署

## 松本センター

〒390-0852 長野市松本市島立 1020 (長野県松本合同庁舎 2 階)  
[TEL] 0263-40-1780 [FAX] 0263-47-3380 [Email] nice-matsumoto@nice-o.or.jp



## 事業者 エアロスペース飯田

- 代表者/佐々木 俊一 ●所在地/飯田市座光寺3349-1
- URL/http://www.aerospace-iida.com/

**事業内容** 機械加工、特殊工程(熱処理・表面処理・非破壊検査)の地域内一貫生産体制が整っている共同受注体  
 ・航空機、宇宙機器の部品製造  
 ・RFQ～工程設計(CATIA対応)～加工(熱処理・表面処理含む)～検査・非破壊試験～QA～納入

### 企業の現状及び支援の経緯

2020年から世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大によって、航空旅客の大幅な落ち込みにより、航空機需要が激減しました。これによって航空機部品製造の需要も落ち込み、2022年までの間、厳しい事業環境が続きました。

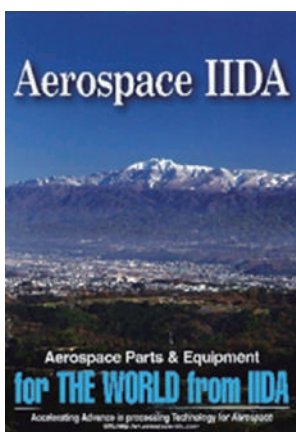
2023年になって漸くコロナ禍が収束期に入り、航空旅客需要が少しずつ回復してきました。エアーラインの航空運航の増加に伴い、航空機部品製造のニーズも徐々に回復していますが、今後の事業戦略の観点からアフターコロナにおける航空機産業界や顧客の動向を把握する必要があります。そのような中、NAGANO航空宇宙産業クラスターネット活動として、エアロマート名古屋2023の出展支援が計画され、本展示商談会に出展参加することになりました。

### 実施した支援内容

愛知県名古屋市で開催された航空機産業の展示商談会「エアロマート名古屋2023」(会期：令和5年9月27日～28日)にAerospace Cluster Net Naganoブースの中に展覧参加しました。

NAGANO航空宇宙産業クラスターネットブースにはエアロスペース飯田とゴコー電工(株)と多摩川精機(株)の県内企業/団体3者が製品や技術力をアピールし、商談販路開拓や国内や海外の航空機メーカーとの商談等を行いました。

「エアロマート名古屋」は、産業界の各分野においてグローバルなB2Bマッチングイベントを開催している



advanced business events社(フランス)が主催する展示商談会です。今回は、海外企業42社、国内企業198社、総勢240社が参加しました。B2Bマッチングシステムにて計画された商談スケジュールに従い、具体的に実現性の高い商談を行うことができました。

### 支援の結果及び今後の展開等

会期中、エアロスペース飯田は、B2Bマッチングシステムにて計画された全14件の商談や情報交流を行うことができました。また、他県行政からのミーティングオファーが2件あり、他県の航空機産業の現状などの情報収集も行うことができました。

B2Bマッチングシステム以外ではブース訪問が4件あり、これらを含めて来場者との面談による人的ネットワークづくりと販路開拓機会の獲得に成果があり、今後6件の販路開拓アプローチにつなげることができました。



航空機産業展示商談会「エアロマート名古屋2023」に出展して実現性の高い商談を推進

販路開拓

#### 支援を受けて

エアロスペース飯田 事務局

エアロマート名古屋2023への出展参加によって、新規顧客開拓のチャンスと既存顧客とのさらなる取引深耕の機会を得ることができました。エアロスペース飯田は国内でも有数の航空宇宙クラスターであり、私どもの一貫生産体制と技術力に興味を持っていただいた多くの来場者と情報交流ができました。この機会を活かしてさらなる事業拡大に向けて努力を重ねてまいります。今後も航空宇宙関連の展示会や商談会には積極的に出展参加してこの業界におけるエアロスペース飯田の存在を確かなものにしていきたいと考えます。

#### 担当部署

航空機産業支援センター

〒395-0111 飯田市座光寺 3349-1 (エス・バード B 棟 3F)  
 [TEL] 0265-49-8047 [FAX] 0265-49-8048 [Email] aerospace@nice-o.or.jp



# セミナー・ドイツ展示会・技術提案商談会で 欧州EV部品の販路拡大をトータル支援

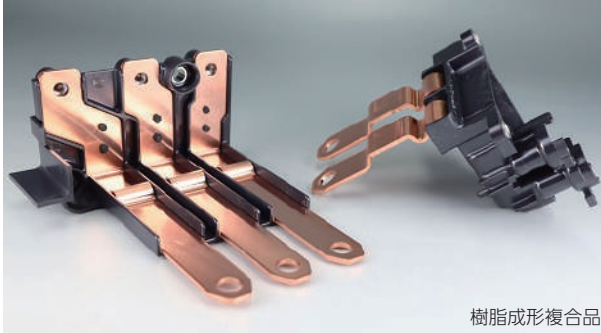
活用した補助金・支援制度等

生産財海外販路開拓支援事業 (EV部品輸出強化事業)

## 事業者 (株)サンコー

- 代表者/竹村 潔
- 所在地/塩尻市広丘野村959番地
- 従業員数/545名
- 連絡先/0263-52-2918
- URL/https://www.sko.co.jp/

事業内容 精密プレス製品及びプラスチック製品の製造及び複合製品の製造



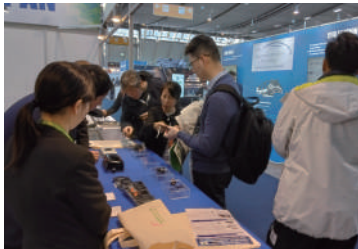
樹脂成形複合品

### 企業の現状及び支援の経緯

同社の経営方針は「EV関連製品の受注拡大」です。同社売り上げの75%以上が自動車部品関連で、国内ではEV関連製品の実績はかなりありますが、さらに受注拡大を図るため、EV化が進んでいる欧州メーカーとのビジネス拡大を検討していました。現在、外資系取引先は大手2社のみで売上比率は約15%と低いため、同社の強みを活かしたEV関連製品の欧州市場での受注拡大を図る機会を探っていました。これらの情報を基に、機構が計画していた欧州自動車メーカーへの販路拡大を支援するEV部品輸出強化事業（欧州自動車メーカーの動向とビジネスチャンスに関するセミナー開催～ドイツ展示会出展・国際版技術提案商談会開催）を紹介したところ強い出展希望があり、本事業の対象企業として支援を開始しました。

### 実施した支援内容

ドイツ展示会への出展に合わせて次の一連の支援を行いました。まず、展示会前に開催したグローバルマーケティングセミナーでは、EV化が加速する欧州市場の動向とビジネスチャンスについて探りました。そして展示会では、自動車部品のサプライチェーンに特化したドイツ展示会への出展支援を行い、展示



展示会風景

会会期中の国際版技術提案商談会では、欧州企業への参入障壁が高いことから、商社との協業も視野に入れ、日系総合商社2社との商談会を実施しました。

#### 1. グローバルマーケティングセミナー開催

テーマ：牽引する欧州EV戦略と市場への参入を探る！  
開催日：令和5年10月24日

#### 2. ドイツ展示会出展支援・国際版技術提案商談会開催

展示会名：『Global Automotive Components and Suppliers Expo 2023』  
開催日：令和5年12月5日～12月7日  
会場：ドイツ・シュトゥットガルト

### 支援の結果及び今後の展開等

#### 1. グローバルマーケティングセミナー開催

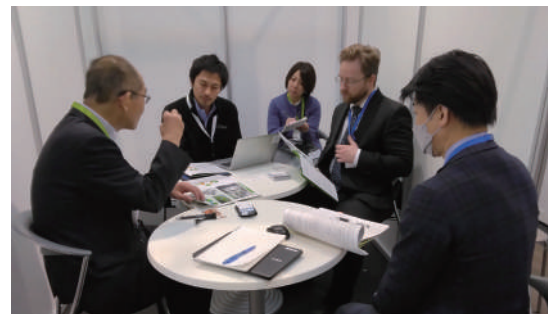
参加者：97名(会場およびオンライン)  
アンケート結果：同社からは、「EVシフト対応をさらに推し進めていく上で非常に役に立った」との回答をいただきました。(全体では98%の参加者が「役に立った」と回答)

#### 2. ドイツ展示会出展

「EV自動車に使われるインサート成形品の紹介ができ、販路開拓への一歩になったと思います。」とのコメントをいただきました。

#### 3. 国際版技術提案商談会開催

「弊社技術を今後、現地ドイツ企業へ紹介していただける一歩となり、商社との協業を進めていく目途が立ちました。」とのコメントをいただきました。  
引き続き、展示会、商談会を通して欧州の次世代自動車市場への販路開拓を支援していきます。



商社との技術提案商談会

### 支援を受けて

営業本部 第一営業部 部長 小澤 賢一 氏

この度のドイツ展示会参加を通じて欧州メーカーとのビジネスの経験談をお聞きすることができたことや、現地にて弊社の強みを紹介できたことは大きな収穫でした。このことは、EV化が進む欧州メーカーへの参入の糸口を探るうえで良い経験となり貴重な第一歩となったと感じております。多大なる支援をいただき誠にありがとうございました。

### 担当部署

#### マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-269-7366 [FAX] 026-227-6086 [Email] kokusai@nice-o.or.jp

## 事業者 (株)丸信製作所

●代表者/小濱 純志 ●所在地/佐久市大字根岸3561  
●従業員数/160名 ●連絡先/0267-62-5111 ●URL/https://www.sakums.co.jp/

事業内容 精密部品加工、熱処理、研磨加工

## 企業の現状及び支援の経緯

同社は2019年にベトナムに進出し、レンタル工場で日本本社向けの自動車部品を製造しています。熱処理、亜鉛メッキ等の表面処理を実施でき、加工から研磨まで一貫加工を行うことができます。現在は日本向け製品が100%ですが、将来的な自社工場建設を見据えて、ベトナム国内、ASEAN地域との直接取引を拡大したいと考えています。



精密部品加工、熱処理、研磨加工

そこで、機会があれば、ベトナムの現地で部品等を調達したいと考えている日系企業等へ同社技術をアピールしたいと考えていました。

## [ベトナム展示会へ出展]

県内中小企業の海外販路開拓を支援するため、当機構が長野県パビリオンを設けたベトナムで開催される展示会の案内を行いました。その結果、支援企業6社の内の1社として出展されました。

また、同時に案内した中小企業海外販路開拓助成金についても活用していただきました。

## 実施した支援内容

## [展示会支援]

ベトナム・ハノイで開催された、Vietnam Manufacturing Expo2023 長野県パビリオンへ出展していただきました。

会 期：令和5年8月9日(水)～8月11日(金) (3日間)  
支援内容：共同の商談コーナーを含む長野県パビリオンの設営と運営

## [助成金による中小企業海外販路開拓支援]

英語版パンフレットの作成、ブースに設置したモニターで流す動画の作成、スタッフの渡航費・宿泊費、ビジネスマッチング費用の一部を助成しました。

支援内容：同支援の案内のほか、現地のビジネスマッチング支援企業を紹介しました。



丸信製作所ブース

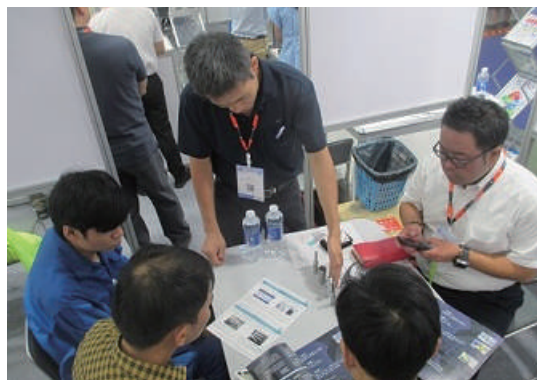
## 支援の結果及び今後の展開等

・同じ「困りごと」がある現地企業が多数ブースを訪問「熱処理」や「研磨加工」のサプライヤー探しに苦労しているお客様が多いことがわかりました。(商談件数9件)

## ・会期中に6社と商談実施

ビジネスマッチング支援企業と現地で事前打ち合わせを実施しリストを作成しました。その中で6社と商談することができました。

展示会出展により将来への足掛かりを得られたことで、今後の展開が期待できます。



商談コーナーでの商談風景

## 支援を受けて

専務取締役 高橋 優一 氏

弊社として初めて海外の展示会参加でしたが、長野県ブース内の展示であり安心して参加することができました。熱処理、研磨の外注探しに苦労している顧客がブースに多く訪れ、見積り、見学の予約も行うことができました。また、日本本社メンバーがベトナムの勢いに直接触れることができ、意識改革をすることができました。多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。

## 担当部署

## マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-269-7366 [FAX] 026-228-2867 [Email] kokusai@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

生産財海外販路開拓支援事業(海外展示会事業)

**事業者** TAKASHIMA VIETNAM LTD (本社 高島産業(株))

- 代表者/小口 武男
- 所在地/ベトナムビンズオン省 VSIP II 工業団地(本社/長野県茅野市金沢5695-6)
- 従業員数/180名
- 連絡先/+84-274-3589-441(本社/0266-72-8833)
- URL/https://takashima-vn.com

**事業内容** 精密切削加工部品及び切削用ツールの製造販売

精密加工部品

**企業の現状及び支援の経緯**

2008年9月にTAKASHIMA VIETNAM LTD (ベトナム工場)の操業を開始し、15年が経過した高島産業(株)は、本社の「切削～表面処理等の技術」を継承し精密加工部品をベトナムで製造しています。主にベトナムの日系企業から現地企業、欧州企業までの幅広いお客様に対して、海外販売を展開しています。

TAKASHIMA VIETNAM LTDの強みは以下の3点です。

1. 切削からめっきまでの一貫加工が可能
2. 特殊形状の製品は自社内製作の専用加工機により製作可能
3. 自社で切削用ツールの製作が可能

現在、世界規模のコロナ禍は落ち着いてきたものの、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響でビジネス環境が変化しています。その影響を受け同社も従来品の減産など厳しい状況に直面しており、新しいお客様とのつながりを模索されていました。

そこで、当機構では海外展示会出展支援事業をご案内し、ご出展いただきました。同社は現地に工場を有し、過去にも同様の展示会の出展経験がありましたので、出展費用や現地でのサポートなどさまざまな形で支援をさせていただきます。

**実施した支援内容**

新規顧客開拓を目的として海外展示会事業をご活用いただきました。

当事業は、県内中小企業の海外販路開拓を支援するため、有望市場における展示会に長野県パピリオンを確保し、

製品等を展示・商談することにより、グローバル市場への進出・ビジネスの拡大を図ることを目的としています。

展示会名：METALEX VIETNAM 2023

会期：令和5年10月4日(水)～10月6日(金)までの3日間

会場：ベトナム・ホーチミン市

出展対象：工作機械、精密測定機器、工具、溶接、ポンプ、バルブ他

長野県パピリオン内の6ブースのうちメイン通路に面した角小間ブース(6㎡)をご利用いただきました。

現地法人独自で出展され、現地スタッフの方々にも存分にご活躍いただき、商談通訳を介さず自社のPRや製品説

明等をしていただきました。

出展成功のカギとなる事前準備を入念に

実施いただけるよう、出展者様には関連する

アドバイス等をさせていただきます。



切削用ツール(自社製造)

**支援の結果及び今後の展開等****【展示会期間中の商談状況】**

試作依頼：3件

見積依頼：4件

図面検討依頼：7件

訪問約束：7件

ブース来社数：100社以上

商談案件数：20件以上

**【展示会会期後の商談状況】**

展示会終了後、ブースにお越しくださったお客様へのご挨拶及び自社紹介、さらには工場見学の機会等を経て、新規のお客様と取引契約書締結に至り、継続的なつながりを持つことができました。

今後も同社では既存のお客様と同様に、新しいお客様とのつながりを大切にして事業発展に取り組んでいきたいと考えており、引き続き支援をさせていただきます。



伊藤和樹氏(左端)と現地スタッフの方々

**支援を受けて**

TAKASHIMA VIETNAM LTD 副社長 伊藤 和樹 氏

「VIETNAM MANUFACTURING EXPO 2019」(ハノイ市)長野県パピリオンへの出展以来、約4年振りに出展させていただきました。

社会情勢が急速に変化している中で、どのように変化に適応していくかと考え行動しました。結果、新しいお客様とのつながりを持つことができました。これからはこのご縁を大切にしていきます。

長野県産業振興機構マーケティング支援部の皆様にはご協力いただきまして感謝申し上げます。

**担当部署****マーケティング支援部**

〒380-0928 長野市若里1-18-1(長野県工業技術総合センター3階)

[TEL] 026-269-7366 [FAX] 026-227-6086 [Email] kokusai@nice-o.or.jp

事業者 (有)今村精工

- 代表者/今村 重樹
- 所在地/飯田市座光寺3546-6
- 従業員数/25名
- 連絡先/0265-24-3402
- URL/<https://imamuraseiko.co.jp/>

事業内容 精密機械加工



金属加工事例1



長野県・富山県ものづくり連携商談会 in 東京 開催風景

初めての商談会参加で新規取引先開拓にチャレンジ!

販路開拓

企業の現状及び支援の経緯

同社は、マシニングセンターやNC旋盤を用いた精密機械部品加工を行っており、半導体設備部品、省力化機器部品、自動車部品などの加工生産を主軸としています。部門の完全区分生産方式を採用し、単品物と量産物の生産部門を分けることで生産効率を高め、お客様のご要望に迅速に対応できる体制を整えています。また鉄、SUS、アルミ、鍛造品、ダイカスト品等の丸物、角物は設備範囲内のもは全て加工にお応えできます。

これまで当機構の商談会に参加したことはありませんでしたが、新規取引先開拓に力を入れていく方針を固め、本年度から商談会に参加し、数多くの発注企業と商談を行い、新規取引先の開拓にチャレンジしました。

実施した支援内容

令和5年11月に開催した「長野県・富山県ものづくり連携商談会in東京」に初めて参加しました。商談申込みをした6社の発注企業に加えて、同社と商談したいと逆指名のあった発注企業を含め、合計7社と商談できるように日程調整を行いました。

商談会前には参加手引書を送付し、事前準備すべきこと、当日の商談の流れなど円滑な商談に向けたアドバイスをを行いました。

またテクノロジーチナガノに登録し、令和5年度の第1回及び第2回テクノロジーチナガノ商談会にも参加し、数多くの発注企業との商談の場を提供しました。

支援の結果及び今後の展開等

「長野県・富山県ものづくり連携商談会in東京」では発注企業7社と商談し、うち3社と商談継続できる感触が得られ、その後の商談により見積依頼があり現在も取引成約に向け商談を継続しています。ただし本商談会では1社当たりの商談時間が20分と短かったため、商談時間の中で自社PRを含め効果的に商談することが難しく課題が残りました。

また、第1回テクノロジーチナガノ商談会では発注企業2社と商談し、第2回テクノロジーチナガノ商談会でも発注企業4社との商談申込みを行い、令和6年2月に商談を実施する予定となっています。

自社の営業活動では、商談機会を作ることが難しい発注企業と効果的に商談できる商談会を今後も数多く提供していきます。



金属加工事例2

支援を受けて

営業部 部長 大蔵 隆氏

全く新規のお客様との面談（WEBを含む）はずいぶん緊張しましたが、自社のPRができる機会を与えていただいたことは、大変、貴重で有意義な時間になりました。商談会後も継続して連絡を取り、見積り、受注につながるよう努力する所存です。今後ともよろしくお願いたします。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-227-5013 [FAX] 026-228-2867 [Email] [matching@nice-o.or.jp](mailto:matching@nice-o.or.jp)

活用した補助金・  
支援制度等消費財国内販路開拓支援事業(おいしい信州ふード発掘商談会・沖縄国際物流ハブ商談会)  
消費財海外販路開拓支援事業(海外バイヤー商談会・長野フェア)

## 事業者 (株)吉岡

●代表者/柳原 章力 ●所在地/長野市松代町岩野 267  
●従業員数/6名 ●連絡先/026-278-2284 ●URL/https://www.nagaimo-shop.com/

事業内容 長芋商品の製造、販売

## 企業の現状及び支援の経緯

同社は長野県内でも有数の長芋産地である長野市松代町で創業しました。事業内容は長芋栽培、漬物製造、卸売等を行っています。

海外でも健康志向の高まりにより、台湾や米国向けの長芋の輸出が全国的に伸びており、栄養豊富で日本の伝統食品でもある長芋は、和食を代表する食材の一つとして認知されています。

同社でも長芋を国内外の皆さんに味わって欲しいとの思いから、更なる販路拡大をしたいと考えていましたが、同社の知名度が低く、思うように販路が広がらないことが課題だと感じていました。特に海外向けは苦戦していました。

そこで海外展開の一步として、商談会に参加し、バイヤーニーズを把握するとともに同社の知名度を高めたいと考えました。

## 実施した支援内容

米国(ハワイ州、カリフォルニア州)と台湾の日系スーパーで、当機構が毎年開催している長野フェア事業を紹介しました。事前商談会ではバイヤーに対し、丼ものに使用する冷凍とろろを中心に、長芋キムチやとろろなめ茸を提案し、とても美味しいと好評価を得ました。

海外バイヤー商談会では、タイの日系卸商社と商談を行いました。バイヤーからは、「現在、北海道と青森から長芋を仕入れているが、仕入地を拡大して、長芋の取扱い期間を長くし、販売量を増やすため長野県産も取扱いたい。」



との要望がありました。同社は緩衝材として一般的に使われているもみ殻から抗菌作用の高いおが粉へ変換を進めており、商品の病害虫被害を予防できる点がバイヤーに高く評価されました。

## 支援の結果及び今後の展開等

米国の日系スーパーで開催する長野フェアでは、とろろなめ茸キムチ、冷凍とろろ、冷凍長芋キムチの採用が決まり、米国向けの販路拡大につながりました。

また、タイの日系卸商社とは、早速トライアルとして長芋を1箱輸出することが決まり、現地で商品の状態を確認したうえで、問題がなければ今後取扱量を増やしていく見込みです。同社の主力商品の一つである「冷凍とろろ」は、国内で介護食としても需要が増えているため、新たな切り口でバイヤーに提案し、国内外の販路拡大を目指します。



## 支援を受けて

代表取締役 柳原 章力氏

当社は、今年度長野県産業振興機構様のご支援を賜り、現状の国内販売に留まらず海外バイヤー様にも長野県の長芋という食材の可能性をPRできました。長芋は健康食材の一つとして国・地域での食べ方などを更にブラッシュアップをしていくことにより、引き続き海外現地のお客様にも興味を持っていただけるように提案してまいります。

## 担当部署

## マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5 階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp

事業者 (株)今井恵の里農産物加工所

●代表者/犬飼 繁 ●所在地/松本市今井956-1 ●従業員数/社員2名 アルバイト7名  
●連絡先/0263-88-8043 ●URL/https://www.imai-megumi.com/

事業内容 農産物加工

農業の新たな付加価値を生み出す6次化産業を推進します

販路開拓

企業の現状及び  
支援の経緯

道の駅「今井恵みの里」は、平成21年8月2日に松本市で最大の農業地帯である今井地区の広域農道グリーン道路沿いにオープンしました。当道の駅では「地産地消」及び「獲れたてそのまま」を基本コンセプトに農産物販売や6次産業化として農業の豊かな地域資源を活用し、新たな付加価値を生み出す取組を進めてきました。

さらに、これまで廃棄していた規格外の農産物を加工し、新たな食品として製造するため「株式会社今井恵の里農産物加工所」を設立しました。そこで生産した商品（地元特産のスイカやサクランボ、モモ、ブドウ、リンゴなどの冷凍果実「もぎっと！キュン」等）の新たな販路を拡大するためにどうしたら良いかとの相談があったため、多くのバイヤーが来場される当機構主催の商談会への参加をご提案しました。

実施した支援内容

まず、第1ステップとして6月に長野市で開催した「長野県産品商談会」をご提案し、出展していただきました。商談会に向けた打合せを通じて展示台の陳列やバイヤーとの商談に関するアドバイスをを行いました。この商談会に出展することによって実際にバイヤーとの商談や商品に対する意見を聴取できることだけでなく、他社の展示台や商談の様子を参考にさせていただく機会となりました。次に第2ステップとして、長野県内から関東圏への販路開拓を目指し、9月に池袋サンシャインシティで開催した「おいしい信州ふーど発掘商談会 in 東京」に出展していただきました。前回の長野県内会場での出展時に商談を行った来場者とは異なる商品への意見や新たな気づき、発見があり、貴重な情報を得られる機会となりました。



支援の結果及び今後の展開等

当機構が開催する2回の商談会を通して、地元特産の冷凍商品「もぎっと！キュン」等が、コンビニ、スーパー、卸の5社、都内の既存の取引先から新たに追加の商品採用や催事等で使用する「農産加工品」の取扱の要望をいただくことができました。これらの要望をいただいた事業者とは、取引が成立するように取組んでいます。また、引き続き、農業の6次産業化や新たな農産加工食品の冷凍シリーズの開発を進めて、当機構の開催する展示会やWEB商談等を活用していただき販路拡大への支援をしてまいります。



支援を受けて

所長 犬飼 繁氏

農産物加工所は生産者からの受託加工を中心に事業を進めてきました。令和4年、規格外農産物の更なる活用を目指して急速冷凍設備を導入し、自社ブランドでの商品開発を開始しました。本年より、コーディネーターさんには幾度となく来所していただき、販路開拓については経験・知識の無いところから、一つずつご指導いただき大変感謝しております。おかげさまでいくつかの商談にも繋がり、今後の展望も徐々に開けてきました。引き続きご支援をいただきながら、地域農産物を「活かす」取り組みを進めていきたいと考えています。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp

## 活用した補助金・支援制度等

消費財国内販路開拓支援事業(長野県産品商談会・おいしい信州ふード発掘商談会・重点支援商談代行)

## 事業者 (有)本郷鶏肉

●代表者/平野 拓也

●所在地/松本市市場4-4

●連絡先/0263-24-2941(代)

●URL/https://www.hongo-keiniku.co.jp/

事業内容 食肉・惣菜・デリカテッセンの製造・販売及び飲食業

## 企業の現状及び支援の経緯

同社は松本で創業70年の歴史を誇り、鶏肉を中心とした惣菜専門店です。松本・塩尻地方のローカル名物である「山賊焼」をはじめ、信州の伝統野菜や地場の農産物のおいしさを活かすための調理技術の追求や、添加物を最小限に抑え広い世代に飽きることなく何回も食べていただける食品を提供することを目指し商品づくりをしています。今回、長野県の食材を使った、忙しい方でも手軽に調理できる肉団子に関東圏に向けて販路拡大を目指す要望があったことから支援を行うこととなりました。

## 実施した支援内容

同社では、販路拡大に向け当機構が開催する商談会や展示会に積極的に参加しています。

今回、初めて関東圏のバイヤーとの商談を直接当社が行うのではなく、代行商談の専門家が担当し、販路開拓支援まで一貫して行う「重点支援事業商談代行」に応募していただきました。

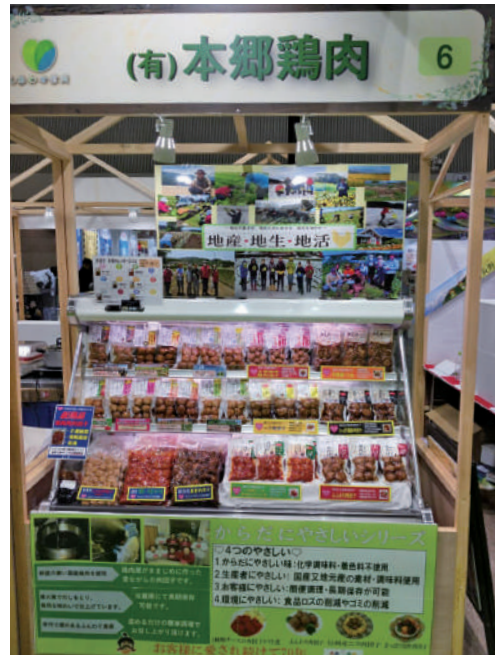
商談で提案する商品は、長野県の特徴を出せるものとして、「松本一本ネギを使った鶏肉団子」、「塩尻市で露地栽培

培したニラを使った化学調味料不使用のニラ肉団子」、「長野県のりんごで作ったリンゴ酢使用の黒酢肉団子」を選定しました。

「重点支援事業商談代行」に向け、商談を代行する専門家との事前の個別面談を行い、本番に臨みました。当日は、バイヤーから商品づくりの考え方や味について高い評価をいただくことができました。また、今まで気付かなかった包材デザインや調理方法に関する改善提案をいただくことができました。

## 支援の結果及び今後の展開等

今回の「重点支援事業商談代行」では、関東圏のスーパー、高質系スーパー、百貨店、通販などから新規での取り扱いに向けて非常に好意的な評価を多くいただきました。重点支援事業の商談に参加いただいたバイヤーの皆様は長野県の食材に大変関心があること、そしてその食材を生かしたおいしい商品を望まれていることがわかりました。今回いただいたご意見をもとに、今後も長野県の特徴(食の伝統文化を含む)のある農畜産物を使い、多くの消費者にご利用いただける魅力ある商品の開発を進めています。



## 支援を受けて

代表取締役社長 平野 拓也 氏

この度は重点支援事業商談代行に参加させていただきましたありがとうございます。商談会でバイヤーからいただいた貴重なご意見や感想をもとに、毎日食べても飽きのこない味づくりとともに信州伝統野菜を取り入れて新たな販路にもつなげていきたいと思っています。

## 担当部署

## マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5 階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

消費財国内販路開拓支援事業(おいしい信州ふーど発掘商談会)  
消費財マーケティング力強化事業

事業者 **森食品工業(株)**

●代表者/岡田 克美 ●所在地/千曲市大字森2543  
●連絡先/026-272-0121 ●URL/https://mori-syoku.co.jp/

事業内容 りんごプレザーブ・各種ピューレー・ジャム製造販売

企業の現状及び支援の経緯

同社では、過去に信州大学との共同研究で杏仁の解毒法の特許を取り、食品衛生法上の安全基準をクリアし、使用許可申請を試みましたが、薬機法上の見解が分かれてしまい、杏仁の活用を断念した経緯がありました。

また、約7年前に※1「グレーゾーン解消制度」について、当時の社長に提案しましたが手続きの煩雑さに難航し、進展がありませんでした。そのような中、同社において「おいしい信州ふーど発掘商談会in東京」で、原材料に※2「杏仁霜(きょうにんそう)」を使用した「杏仁豆腐」の出品がありました。そこで、担当者に「グレーゾーン解消制度」を活用すると「国産杏仁」を使用した本格的な「杏仁豆腐」を製造出来る可能性があることを説明し、支援を行うことになりました。

※1「グレーゾーン解消制度」とは産業競争力強化法に基づき、事業者が現行の規制が不明確な場合に、規制の適用の有無を確認できる制度

※2「杏仁霜(きょうにんそう)」とは杏子の種子の中にある「仁(じん)」をすり潰したもので、杏仁豆腐等に使われる原材料のこと。



実施した支援内容

早速、以前の提案内容を持参し説明したところ、直ちに「グレーゾーン解消制度」による、要望書の作成を開始しました。ポイントは、薬機法と食品衛生法の矛盾と合理性はどちらにあるか、そして、輸入手続きは食品衛生法の立場を採用しており、製造・販売上で一方的に不利益を被っていることを主張すること等のアドバイスをを行いました。

同社では、直ちに経済産業大臣あてに「新たな規制の特例措置の整備に係る要望書」を提出しました。その後、経済産業省の担当者とのWeb会議を通じて、詳細な説明と訂正事項の指導を受け、経済産業大臣・厚生労働大臣の両大臣あてに要望書を再提出しました。

支援の結果及び今後の展開等

経済産業省担当者との打ち合わせでは、要望書を受け入れる方向なので、両大臣宛てに要望書を再提出するようにとの指示がありました。これにより要望書の最終回答が届き次第、杏仁の製造を開始し、「日本一のおんずの里」の杏仁を使用した「杏仁豆腐」の製造・販売にこぎつける目途が立ちました。

同社の取得している特許を活用し、杏仁の毒性を低減した新商品の開発は、日本初の本格的な「杏仁豆腐」となり、同社の「森杏庵」ブランドの「しそ巻おんず」や「信州おんず・乾」と共に、「日本一のおんずの里」のプレミアム商品として、品揃えを充実させることで、販路拡大に弾みがつくと思われれます。



支援を受けて

企画開発課 課長 山川 満氏

申請内容は専門的な知識が必要で、ある程度のハードルはあるものの、経済産業省のサポートもあり、前に進む印象があります。省庁を横断して判断をする仕組みは今まで無いという認識でしたので、時代が変化したなと感じております。  
おいしい信州ふーど発掘商談会の際のコーディネーターのアドバイスが、きっかけになり感謝しています。

担当部署

マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5 階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp



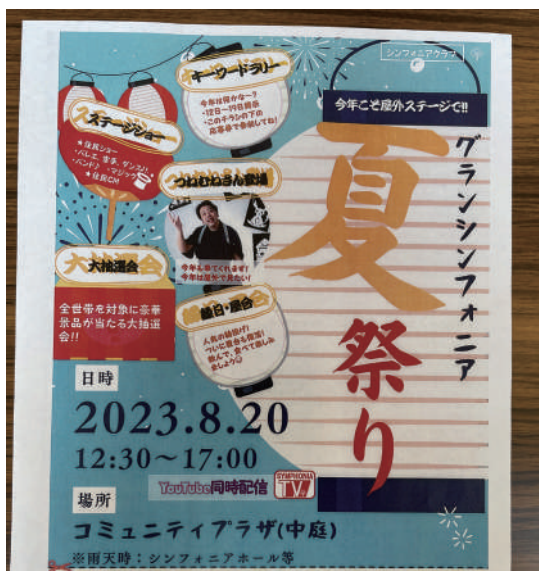
活用した補助金・支援制度等

消費財国内販路開拓支援事業(おいしい信州ふーど発掘商談会)

## 事業者 (株)信州自然王国

- 代表者/花岡 大志
- 所在地/飯田市座光寺6115
- 連絡先/0265-52-3780
- URL/https://kakashi.co.jp/

事業内容 各種農産物の販売(野菜・果樹類・きのこ類)、無添加農産加工品の製造・販売  
PB製品の企画および製造



## 企業の現状及び支援の経緯

同社は、有機農業を志す農家の生産出荷組合としてスタートしました。青果物の出荷に加えて農産加工工場を設立し、「美味・安心・安全」の製品をお届けすることをポリシーに化学合成された添加物を一切用いない本物の味造りを目指して、約200品目の調味料・ジャム・惣菜類の瓶詰製品を製造しています。

その中で、同社では新たな販路の拡大にも取り組んでいます。

大型マンションのコンシェルジュを運営する東京都の事業者である催事運営者から首都圏では手に入りにくい原材料にこだわった地域産品紹介の要望がありました。そのため、令和5年9月に当機構主催の池袋で開催した「おいしい信州ふーど発掘商談会in東京」に来場を案内し、同社の商品を紹介しました。

## 実施した支援内容

この大型マンションのコンシェルジュを運営する事業者は、マンション内の小売店を運営し、居住者向けに年間約

100件の催事販売を行っています。居住者の満足度向上を目指し、特に居住者が好みやすい原材料にこだわった地域産品の販売を希望していました。

しかし、社長自身が小売店での対面販売や商品の製造、営業業務に従事しており、催事対応の時間を確保するのが難しい状況でした。

そのため、催事運営者の方で、商品の長を伝え販売することができるよう、販促物や販売方法の提案、スタッフへの指導を行いました。これにより、同社の社長が毎回催事に出向くことなく商品が売れるスキームを提案しました。さらに、催事ごとに商品を供給するのではなく、在庫を他の催事と共有したり、数量に応じて小売店で販売できるよう提案し、納品業務を簡素化しました。

## 支援の結果及び今後の展開等

初回の売上実績(令和5年10月)がとても好評であったため、他の催事での商品供給の要望があり、令和5年には3回の催事で販売を行いました。

このコンシェルジュ運営事業者は、約300件の催事案件を保有していますので、当機構では同社商品の売れ筋の分析やマンネリ化を防ぐために新商品の導入や売り方の提案を行い、催事販売での取扱いの要望を増やせるように、引き続き支援してまいります。催事での取り扱い需要が増えることで、新たなユーザーを獲得し、このユーザーが小売店等で同社商品の導入を要望していただくことで、新規取り扱い先の拡大が期待されます。



## 支援を受けて

代表取締役 花岡 大志 氏

日頃より公益財団法人長野県産業振興機構のコーディネーターはじめ関係者の皆様には、商談会、販路開拓先の紹介など、ご協力を賜りまして感謝いたします。

今回は今まで考えていなかった新たな販路を開拓できたこと、とても喜ばしく思います。まだまだこれからも環境回復に向けて取り組むことが多々ありますが、これからもお力をお借りして、事業拡大を目指していきたいと思っております。

皆様も積極的に活用してもらいたいです。

## 担当部署

## マーケティング支援部

〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2 (長野県庁 5 階 長野県営業本部)  
[TEL] 026-235-7246 [FAX] 026-235-7387 [Email] hanro@nice-o.or.jp



事業者 (有)日野岩

- 代表者/塚田 篤雄 ●所在地/長野市東之門378番地
- 従業員数/8名 ●連絡先/026-232-2866 ●URL/https://hinoiwa.com/

事業内容 葬祭業

企業の現状及び支援の経緯

同社は1885年(明治18年)現代表者の曾祖父塚田岩治郎氏が「日野岩治郎商店」として創業、1988年(昭和63年)(有)日野岩として法人設立、2002年(平成14年)日野岩葬送会館「想樹の杜」を竣工しました。

地元長野市内の葬儀を請け負っており、遺族へのきめ細かな心遣いと、心に寄り添える葬儀場として高い評価を得ています。

社長が67歳となり、75歳頃(令和13年)を目途に長女への承継を摸索していたことから、取引金融機関に相談し、長野県事業承継・引継ぎ支援センターへの相談取次となりました。

相談を受けたエリアコーディネーターは、社長、後継者である長女(翠氏)と面談し事業承継に向けての課題を話し合いました。同社は明治18年創業から続く地元長野市の老舗葬祭業者であり、社長の経営手腕、人脈に負うところが大きく、後継者としての長女のプレッシャーもあり、事業承継においても経営ノウハウの承継が一番の課題と考えられました。

実施した支援内容

後継者翠氏は2017年(平成29年)に入社し、今まで現場での接客対応が主であり、経営者としての経営ノウハウの承継やそのための後継者教育が課題となっていました。当センターでは専門家(中小企業診断士)を派遣し、社長、後継者、専門家による事業承継計画の策定支援を実施しました。



事業承継計画を策定する中でSWOT分析を実施し、改めて同社の強みや経営課題を洗い出したほか、後継者教育、承継時期、株式の移転方法等方針を明確にすることができました。

支援の結果及び今後の展開等

専門家派遣事業を実施した結果、社長、後継者共に計画・目標策定の重要性に気づき、コロナ禍や時代背景による葬儀のあり方自体の変化を踏まえた事業承継計画を策定することができました。

事業承継計画を策定し、課題と今後のスケジュールを「見える化」したことにより、当初予定していた承継時期より早期の承継を目指すことになりました。



事業承継計画の「見える化」で早期承継を目指す

支援を受けて

代表取締役 塚田 篤雄 氏

事業承継について不安が多々ありましたが、事業承継・引継ぎ支援センターのコーディネーターや専門家派遣の中小企業診断士の先生にご指導いただき感謝しております。今回事業承継計画書を作成し、まだまだ先だと思っていた承継に向けての準備ができました。あとは計画に基づき後継者へのバトンタッチを進めていきたいと思っています。

担当部署

長野県事業承継・引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1(長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-219-3825 [FAX] 026-219-3826 [Email] hikitsugi@nice-o.or.jp



事業者 (有)小山技工所

- 代表者/小山 進二郎
- 所在地/飯山市南町8-11
- 従業員数/4名
- 連絡先/0269-62-3866

事業内容 歯科技工所

企業の現状及び  
支援の経緯

同社は1977年、現代表者が歯科技工所を個人で開業し、1978年に法人を設立しました。技術力が高くノンクラスプデンチャー（パネのない入歯）の製作についてはトップクラスで、県内でもまだ少ないCAD/CAMを導入し、北信地方及び県外の歯科医院から安定した受注があります。社長が71歳となり事業承継の進め方が分からず困っており、飯山商工会議所へ相談したところ、長野県事業承継・引継ぎ支援センターへの相談取次となりました。

相談を受けたエリアコーディネーターは、社長夫妻、後継者である次男（裕資氏）と面談し事業承継に向けての課題を洗い出しました。同社は創業者である社長の経営手腕と高い技術力、取引先との人脈に負うところが大きく、事業承継において経営ノウハウの承継が課題と考えられました。

実施した支援内容

後継者裕資氏は2001年に入社し、今まで現場技工士として腕を磨いてきましたが、経営者としての後継者教育が必要であったため、専門家(中小企業診断士)を派遣し、社長、後継者、専門家による事業承継計画策定支援を実施しました。

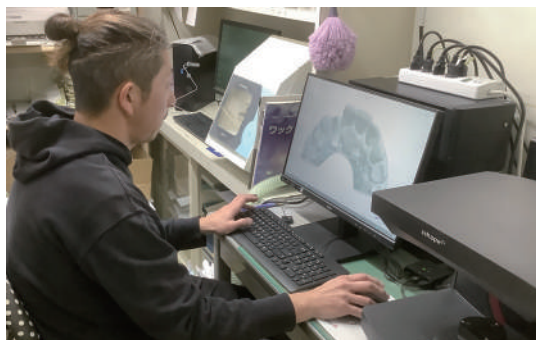


また、事業承継計画を策定する中で、SWOT分析を実施し、社長、後継者、専門家を交えて議論し、「積極戦略」、「改善戦略」、「差別化戦略」をまとめ、ポスト事業承継として後継者の目指すべき指針を明確にしました。

支援の結果及び今後の展開等

専門家派遣を実施した結果、社長、後継者共に事業承継計画策定の重要性を共有でき、社長の持つ技術を後継者と従業員で承継できるように、社長・後継者を中心にマニュアル化を進めることとなりました。

事業承継計画により、課題と今後のスケジュールが「見える化」でき、承継に向け具体的にやらなければならないことが整理できたと同時に、承継に向けた覚悟ができました。



支援を受けて

代表取締役 小山 進二郎 氏

事業承継の進め方が分からず困っていましたが、事業承継・引継ぎ支援センターのコーディネーターや専門家派遣の中小企業診断士の先生に親身になってご指導・ご支援いただきました。今回自社の良いところ、問題点を把握できたことは有意義でした。おかげさまで後継者と経営方針の共有ができ、事業承継がハッキリと具現化できました。

担当部署

長野県事業承継・引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-219-3825 [FAX] 026-219-3826 [Email] hikitsugi@nice-o.or.jp



**事業者** 齋藤金型設計事務所

●代表者/齋藤 誠 ●所在地/上田市神畑乙127番地14  
●従業員数/7名 ●連絡先/0268-38-7600 ●URL/https://saitodesign.com/

**事業内容** プラスチック射出成型用金型設計

法人成りも視野に後継者の育成・事業承継を目指す

**企業の現状及び支援の経緯**

代表者である齋藤誠氏は現在73歳で、32歳で起業した同社は、プラスチック射出成型金型の設計がメインで、幅広い製品設計に柔軟に対応でき、金型製造も数年前にM&Aにより取得した関連会社で製造できる体制を強みとしています。

同社は現在個人経営ですが、売上高や利益金の規模から、いずれは法人化することを検討していました。上田商工会議所の経営指導員の提案で、後継者育成を絡めた事業承継の相談依頼がエリアコーディネーターに取り次がられました。ヒアリングで多くの経営課題が見えてきたことから、専門家派遣による課題解決が必要であると判断し、経験豊富な専門家(中小企業診断士)を派遣することにしました。代表者は後継者候補である二人の息子に同社及び関連会社をそれぞれ承継させたいと考えていましたが、踏ん切りがつかずに悩んでいました。また、総務・経理は現社長夫人に依存しておりこれらの体制作りも課題となっていました。

**実施した支援内容**

専門家派遣により、創業経緯、会社沿革から現在の経営状況を確認し、SWOT分析による強み・弱みを踏まえた事業承継の展開と課題を整理しました。その上で後継者二人それぞれの将来に対する期待と不安、経営に対するイメージや事業に対する思い等をヒアリングし、それらを踏まえたビジネスモデルや事業承継後の行動計画を策定



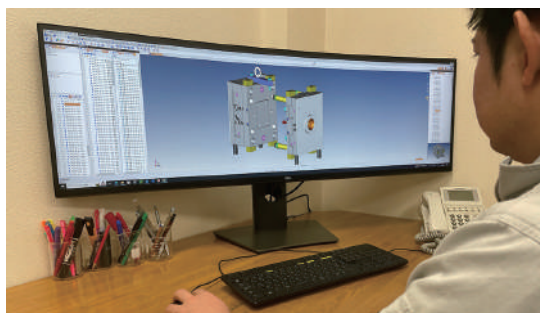
本社外観

しました。法人成り・相続税対策・関連会社との関係性などをトータルで検討することや経理・総務業務の事業承継の重要性、顧問税理士等専門家の必要性についてアドバイスしました。

計4回の専門家派遣により、事業承継計画書を作成しました。

**支援の結果及び今後の展開等**

これまで社長夫妻依存の経営体質でしたが、今後は後継者を中心に新体制での経営が見込まれ、総務・経理体制、人材確保、情報共有の仕組みなど社内体制を構築しながら早期の事業承継を目指すことになりました。同時に法人成りの検討を会計事務所と共に行うことになり、中長期的なスタンスで関連会社を含めた経営改善、関係性の強化が期待されます。



設計風景



会議風景

支援を受けて

後継者・長男 齋藤 彰氏

4回にわたり、弊社各々の思いや会社の状況をヒアリングしていただき、事業承継計画書を作成していただきました。具体的に行動しなければならぬことや、心構え、考えていかなければならぬ課題等が明確になりました。当人同士だと伝えづらい話を、第三者として間に入っていただき、話し合いを進め、お互いの思いを認識することができ、円滑に法人化ならびに事業承継を行うことができそうです。

担当部署

長野県事業承継・引継ぎ支援センター

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-219-3825 [FAX] 026-219-3826 [Email] hikitsugi@nice-o.or.jp

活用した補助金・支援制度等

よろず支援拠点事業

事業者 (有)中央工芸

- 代表者/中平 直起 ●所在地/下伊那郡高森町山吹4917-5
- 従業員数/5名 ●連絡先/0265-35-7725 ●URL/https://chuoukogei.com

事業内容 吹付塗装用治具製造業



事業承継・引継ぎ



した。販路開拓については大手企業からも定評のある金属製塗装用治具を加工できる技術力やノウハウがアピールポイントになることを確認し、公益財団法人南信州・飯田産業センターとも連携しながら、地域内では南信州

企業の現状及び支援の経緯

主として吹付塗装用の治具を製造している会社です。主にメーカーや塗装業者の要望に応じて、特注でマスク用治具や周辺ツールを開発、製造、販売しています。

地域金融機関からの紹介でよろず支援拠点に相談にいられました。吹付塗装用の治具製造というニッチな業態のため、同社の販売先の多くは自動車関連に偏っており、最近は売り上げが伸び悩んでいました。そういった背景もあり、一般消費者向けのサービスとして、棚などの金属製品を特注製造する独自事業「あったらいいな」を開始するための情報発信の相談として来られました。

しかし、現状について深くヒアリングしたところ、令和5年10月の先代からの事業承継を機会として、いままで曖昧だった組織の仕組みを整えたいという悩みを抱えていることが判明しました。そのため、独自事業の情報発信と並行して事業計画書の作成についても推進することになりました。

実施した支援内容

飯田サテライト相談会会場を活用し、月1回の定期的な面談を通じて、経営目的や経営方針の明確化にはじまり、販路開拓の方向性やアクションプランの作成を支援しま

エリアの製造業の共同受発注団体であるネスク飯田のネットワークからの受注ルートを開拓しました。また、地域外では過去に取引のあった顧客を中心に営業活動を計画的に展開し、販路拡大を図りました。

支援の結果及び今後の展開等

経営目的や経営方針を明確にしたこと、アクションプランを社内で共有したことにより、販路開拓だけでなく、社内で共通の課題認識を持ち、改善策についての意見交換が活発に行われるようになりました。計画を立てて動くこと自体に慣れない部分はありましたが、属人化していた社内ノウハウの共有や業務効率化、売上高の向上といった成果も出始めています。今後は原価管理の仕組みづくりや価格交渉についても腰を据えて取り組んでいく予定です。



支援を受けて

代表取締役社長 中平 直起 氏

これまで当社では、経営計画の作成や販路開拓といったことに取り組んでこなかったので、どこからどう相談すればよいのか分からない状態でした。そのような中で、よろず支援拠点での相談を通じて、情報発信のノウハウといったテクニックはもちろん、経営全般についても相談することができましたので、当社の課題や取り組むべきことが整理できました。

担当部署

長野県よろず支援拠点

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-227-5875 [FAX] 026-227-6086 [Email] info@nagano-yorozu.go.jp

## 企業の現状及び 支援の経緯

食品製造業においては、食に関連する健康、環境、食糧安全保障、多様化等の社会課題や消費者ニーズに対応し、時代の潮流に則した食品産業の促進、構築、及び地場食品産業の持続的発展が求められています。

また、長野県では、令和5年3月に「長野県食品製造業振興ビジョン2.0」を策定し、フードテックを活用した消費者、社会ニーズに沿った商品開発力の強化を図ることとしています。

このため、県からの委託を受け、当機構では、今年度は二つの研究会を新たに立ち上げ、また、昨年度からの一つの研究会を継続して研究会活動を行い、技術開発や新たな価値を持つ商品等を創出するため、食品製造業等へ支援をしています。

### 長野県食品製造業振興ビジョン 2.0

グローバルな視点で社会的ニーズに対応した長野県「NAGANOの食」の創出・提供により国内外の食市場をリードする食品製造業の実現



信州発酵フードテック研究会の様子

## 実施した支援内容

次の三つの研究会で、企業・大学・研究機関・産業支援機関等が集結、連携して、講演会、相談対応、研究開発委託事業等により支援しています。

### 1. 信州発酵フードテック研究会

(令和5年7月に立ち上げ活動中。今年度計3回開催)

長野県の発酵食品産業が培ってきた発酵技術の活用、発展等により、技術開発や高付加価値な商品開発を目指しています。

### 2. 信州食品産業資源有効利用研究会

(令和5年11月立ち上げ活動中。今年度1回開催)

食品産業における低・未利用資源、食品ロス、食品廃棄物に対して、技術開発や商品開発等により、有効利用、アップサイクル、高付加価値化を目指しています。

### 3. きのご機能性加工食品開発研究会

(令和4年度立ち上げ継続して活動中。今年度計2回開催)

エノキタケを活用した新たな機能性加工食品を開発するための技術開発、商品化を目指しています。

## 支援の結果及び今後の展開等

今後も継続的に研究会活動を続け、講演会、相談対応、交流、マッチング、研究開発支援、情報収集などを通じて、会員が抱えている課題の解決、商品開発、及び市場価値の創出・向上等の支援を推進してまいります。

### 支援を受けて

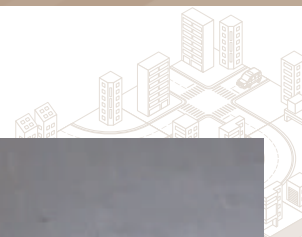
#### 参加者の声

- ・ エノキタケを活用した加工食品に関する特許出願をすることができました。製品化を進めてまいります。(きのご機能性加工食品開発研究会)
- ・ いろいろな乳酸菌の食品への利用方法が聞けて勉強になり、商品開発のヒントになりました。(信州発酵フードテック研究会)
- ・ 食品関連の低・未利用資源等の具体的な活用事例が多く知ることができて参考になりました。(信州食品産業資源有効活用研究会)

### 担当部署

#### 次世代産業部

〒380-0928 長野市若里1-18-1 (長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] shinsangyo@nice-o.or.jp



品質保証スキルを習得  
「航空機産業 品質保証まるわかりセミナー」に参加して

企業の現状及び  
支援の経緯

航空機産業においては、強固な品質保証・品質管理体制の構築が求められています。この現状に対応するために、航空機部品製造に係る品質保証の運用に従事する人材を育成することが必須となっています。

本セミナーは、受注から製造、検査、出荷までの一連の生産活動における品質保証の実務について、ワークショップ形式で、模型飛行機を使い、製造～検査～出荷を模擬体験しながら習得することを目的として開催しています。

実施した支援内容

航空機部品製造に必要な品質計画書や作業手順書等の、品質を保証した生産活動に必要な書類の解説と、その作成演習(ワークショップ)が行われました。さらに本研修のために設計された模型飛行機の製造と検査を行うなど、全2日間にわたる具体的なカリキュラムを通して、顧客要求事項レビュー、受注、工程設計、製造、検査、出荷までの一連の品質保証活用の基本を理解し、実践できるスキルを養うことができました。

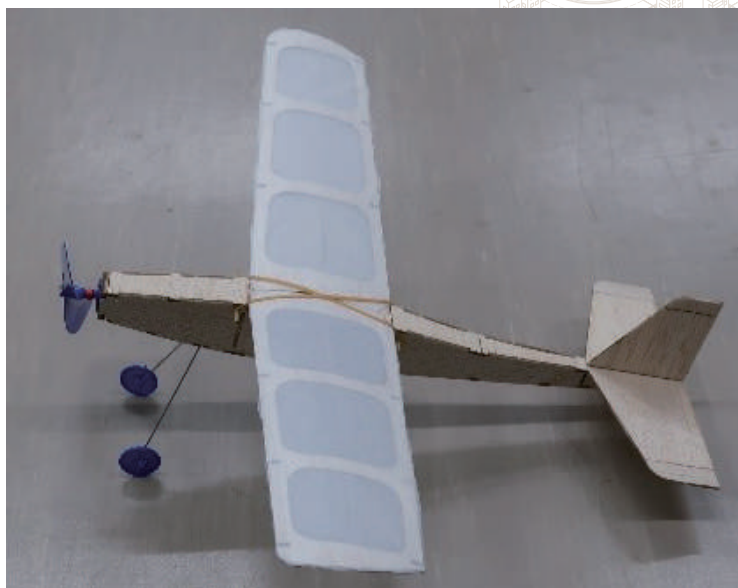
日時：令和5年11月9日(木)～10日(金) 2日間

会場：エス・バード 会議室

講師：名古屋品証研株式会社

原田直弥氏、海老澤勉氏、日坂勉氏

講義内容：要件のレビュー、運用のリスクマネジメント、プロジェクト品質管理、工程表、作業手順書、検査指示票、不適合品の処置、購買、検査記録/FAI、製造、成績書、フライトテスト、まとめ



支援の結果及び今後の展開等

NAGANO航空宇宙産業クラスターネットに参画している企業6社9名の方が受講されました。

業務多忙の中、ワークショップもあり大変だと思いましたが、有意義で実践的な内容だったため、途中脱落される方もなく、全員最後まで受講されました。

受講された方からのアンケート結果の総合評点では、“期待以上”および“期待どおり”が8割あり、本研修に対して受講者の高い満足度が示されました。

アンケート回答からは、本セミナーの受講によって品質保証の一連の基本的プロセスおよび指示書、手順書に従って行っている日常業務の目的と意味を理解したこと、ならびに潜在的な不具合を有する部品使用がもたらす悪影響などの、品質保証上の重要事項の理解が促進されたことがうかがえました。



支援を受けて

参加者の声

- ・テキスト、教材の完成度が高く、内容が充実してよくできたセミナーでした。もっと早く受講すれば良かったと思います。
- ・全体的に解りやすく、品質保証の基本について理解することができて良かったと思います。
- ・設計業務に携わっているが、他の業務分野の事を理解できて良かったと思います。
- ・今後も品質保証に係る講座があれば受講したいと思います。

担当部署

航空機産業支援センター

〒395-0111 飯田市座光寺 3349-1 (エス・バード B 棟 3F)

[TEL] 0265-49-8047 [FAX] 0265-49-8048 [Email] aerospace@nice-o.or.jp

## 「ものづくり産業からサーキュラーエコノミーを考える」シンポジウム in NAGANO」を開催

## 企業の現状及び支援の経緯

長野県ゼロカーボン戦略を実現するためには、ものづくり企業が率先してサーキュラーエコノミー（循環型経済：CE）を目指した材料・製品の設計や製造技術に加え、資源循環の仕組みを社会全体に認知・普及していく活動が求められています。NICEでは昨年度「地域資源循環型複合材料研究会」を立ち上げ、地域特有の廃棄物や自然素材を活用した複合材料の開発とCEへ向けた実証活動への支援をしております。令和5年12月20日に本研究会活動を基盤とし、長野県ものづくり産業のCEのスタートアップの位置づけとして「ものづくり産業からサーキュラーエコノミーを考えるシンポジウム in NAGANO」を開催しました。本シンポジウムは、産業間連携及び産学官連携の強化と県民への周知を目的としていますが、Matching HUB※との連携により北陸地域の大学や産業界との連携を促進させ、横展開を図っています。なお、本シンポジウムは、NICEが経済産業省の産官学パートナーシップに参画し、その活動の一環として実施しました。

※Matching HUBとは、北陸先端科学技術大学院大学が中心となって地域の大学や企業などのマッチングを図り、新製品・新事業につながる種を作る地方創生、地域活性化の取組です。



シンポジウムでの開催挨拶

## 実施した支援内容

本シンポジウムは、1.特別講演、2.パネルディスカッション、3.CE関連製品・技術の展示の構成としました。

1.特別講演は、経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課長の田中 将吾様より「成長志向型の資源自律経済戦略と今後の資源循環経済政策について」と題して、CEに関する経済産業省の重要施策についてお伺いしました。また、産官学パートナーシップへの参画についてもお案内をいただきました。



パネルディスカッションの様子

2.パネルディスカッションでは、テーマを「ものづくり産業からサーキュラーエコノミー(CE)を考える」とし、以下の方方でディスカッションを展開しました。パネラーからの今後の提案も含め、大変有意義でした。

パネラー：田中課長（経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課）、春日社長（hide kasuga 1896）、伊藤社長（SORENA）、岩見参与（根羽村森林組合）、阿部知事（長野県）

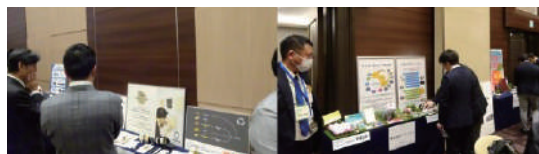
モデレーター：小澤理事（長野経済研究所）

3.展示では、以下の12ブースを会場内に設営しました。最新の技術や商品の展示があり参考になるものでした。

◀hide kasuga 1896、SORENA、根羽村森林組合、上田プラスチック、ミライ化成、ケーエムケー、ELEMUS×マブチ・エスアンドティー、MYCL Japan、長野県工業技術総合センター、信州大学、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学（Matching HUB Trial in NAGANO）▶

## 支援の結果及び今後の展開等

参加者は、企業58名、大学13名、行政・支援機関47名、金融機関5名、報道4名、計127名と予想以上の参加者を得て盛大に開催することができました。特別講演、パネルディスカッション、展示を通じ、参加者の皆様にとってはCEへの理解と取組の必要性を知っていただいたものと思います。アンケート結果も好評価で、先進的な取組をしている研究会メンバーとの連携を始めたとの報告もあります。今後はシンポジウムの継続的開催との要望がありましたので、地域資源循環型複合材料研究会の活動とともに普及啓発のためのイベントを考えてまいります。



展示説明の様子

## 支援を受けて

## 参加者の声

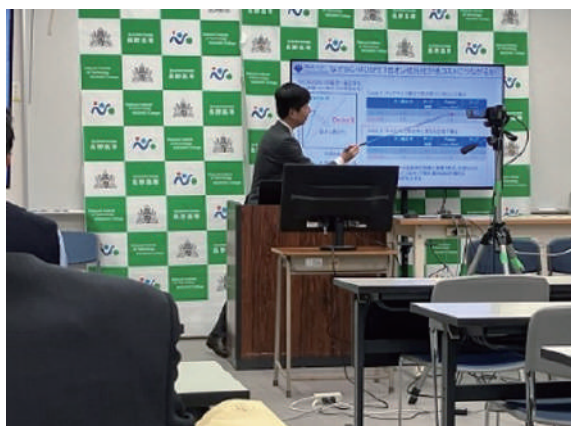
- ・経済産業省が取り組んできた資源循環経済政策の変遷や全体像の説明が参考になりました。
- ・県内ものづくり企業が取り組むCEの具体的なビジネス展開（ビジネスに至った背景や資源循環の考え方）が参考になりました。
- ・事業者の方の説明が分かりやすく、中小企業がこんなに頑張っているなら大企業ももっと積極的に取り組むべきと感じました。また、CEに関する教育の重要性も理解できました。
- ・各ブースに特色のある展示品が並び、当社としても何か入る余地はないか考えを巡らせていました。各ブースの簡単な説明があっても面白かったと感じました。

## 担当部署

## グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1（長野県工業技術総合センター3階）  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] green-innv@nice-o.or.jp





講演会の様子

### 企業の現状及び支援の経緯

善バレミニ学会は、産業イノベーションを創出するため、平成13年に発足し、長野高専のアクティビティ紹介をはじめ、県内外の大学及び地域企業等からの研究事例、事業紹介などの研究成果報告会を開催し、相互の交流を促進する場の形成を提供しています。

その中で長野センターでは、長野高専地域共同テクノセンターとの協力関係を密にし、善バレミニ学会の企画段階から参画し、テーマの協議や、講師選定などを推進しています。

今回は、近年、注目度の高い「ゼロカーボン」をメインテーマに、講演会を開催しました。

また、企業に講演を依頼する中で、脱炭素に配慮した新技術、新製品の開発に意欲のある地域企業に対し、「ゼロカーボン」関連の補助金を紹介しました。

### 実施した支援内容

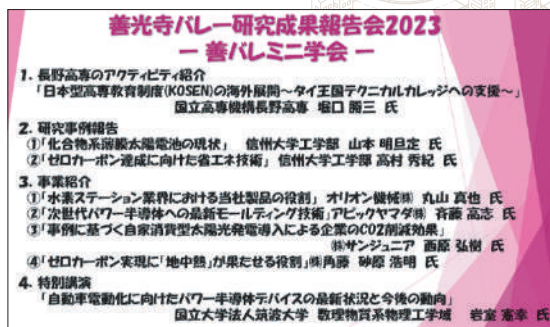
#### 【講演内容の概要】

「ゼロカーボン」をメインテーマとして、信州大学から、研究事例2件、地域企業から事業紹介4件、筑波大学による特別講演を開催しました。その概要は、次のとおりです。

- ・ 太陽光電池の基礎研究事例と、導入によるCO2削減効果の紹介
- ・ 未利用熱(下水熱、地中熱)の活用事例
- ・ 水素ステーションの水素冷却器チラーの事業紹介
- ・ 自動車電動化などのパワー半導体に関する最新動向

#### 【紹介した補助金の内容】

- ・ 補助金の名称：「令和5年度成長産業支援補助金(ゼロカーボン分野)」
- ・ 支援内容：申請書の作成支援、ブラッシュアップ



当日の講演内容(順不同)

### 支援の結果及び今後の展開等

#### 【講演会について】

講演会は、「ゼロカーボン」に関して多岐にわたる内容となり、参加者から大変参考になった、社内で教育用に録画を視聴したいなど、好意的なコメントが得られました。今後、この要望に応えるべく、講演論文集や、講演会の録画視聴などの情報提供を充実してまいりたいと考えています。

- ・ 参加者：55名
- ・ 講演論文集の作成と展開

#### 【採択された補助金について】

パワー半導体の製品開発に適時な補助金が採択できました。今後は、事業の進捗に対して、必要に応じた支援を展開してまいります。

- ・ 採択者：アピックヤマダ株式会社
- ・ 開発テーマ名：「廃棄樹脂を極限まで削減した半導体樹脂封止プロセスの開発」
- ・ 事業名：ゼロカーボン事業化支援補助金(長野県産業振興機構)



講演論文集

### 支援を受けて

アピックヤマダ(株) 金型技術部 部長 斉藤 高志 氏

この度、善光寺バレーミニ学会での講演の場を与您頂き感謝申し上げます。

自動車の電動化の流れは世界的な潮流であり、モーター等の電源制御に使用される SiC・GaN パワー半導体の拡大はゼロカーボンをはじめとした脱炭素化と新たなビジネス創出の機会と位置づけております。

今回の参画を通して弊社の保有する樹脂封止技術と新たな開発製品が持続可能な社会環境整備に貢献できればと思います。

### 担当部署

#### 長野センター

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-225-6650 [FAX] 026-225-6711 [Email] nice-nagano@nice-o.or.jp

小規模水力発電の普及促進を目指した産学官連携の研究を開始

企業の現状及び支援の経緯

長野県ゼロカーボン戦略実現のため、長野県の地の利を活かした再生可能な地産地消エネルギーとして農業用水路などを利用した小規模水力(小水力、マイクロ水力等)発電の普及が期待されています。しかしながら発電効率向上等の技術的課題に加え、各種法規制や既得権への対応が複雑かつ困難であることから、未だ期待された普及には至っていません。そこでNICEでは、県内の専門知識や技術などを持つ研究者や関連企業、県関連部局とともに、小規模水力発電の普及促進のための「小規模水力発電研究会」を立ち上げました。産学官連携のもと、様々な技術的・社会的課題を情報共有することで課題解決の糸口を探ることを目的としています。現在、技術課題や法規制等に関する専門家の講演や意見交換、事業化のための現地視察等を行っています。本研究会は、今まで製造業や発電事業者を中心に45社・団体のほか、信州大学工学部(長野市)、長野県環境部・企業局及び市町村等が参加をしています。

実施した支援内容

第1回研究会(キックオフ)参加者53名

- ①講演:「小規模水力発電の研究開発事例」  
信州大学工学部機械システム工学科准教授  
飯尾 昭一郎 氏
- ②話題提供:「長野県企業局・環境部の取組」  
長野県企業局電気事業課・長野県環境部環境政策課  
ゼロカーボン推進室

第2回研究会(見学会)参加者40名(2班)

- ～須坂市に設置している小規模水力発電所の見学～
- ①米子川第一発電所(200kW)【長野エネルギー開発】
- ②米子北の沢用水発電所(120kW)【藤巻建設】
- ③らせん水車(2kW)【新井製作所】
- ④塩野小水力発電所研究所(30kW)【新井製作所】

第3回研究会 参加者53名

- ①講演:「河川法の概要と最近の河川管理について」  
長野県建設部河川課



須坂市で開催した見学会の様子

支援を受けて

参加者の声

- ・実際に小規模水力発電事業を行っていますが、他の事業者の申請時の課題や土地改良区、水利権者に対する働きかけの方法などの実話が聞け参考になりました。
- ・自社内流路での発電の可能性を見極められました。

小規模水力発電研究会

小規模水力発電×地産地消エネルギー×産学官連携

■設立趣旨

長野県の地の利を活かした再生可能な地産地消エネルギーとして、農業用水路などを利用した小規模水力(小水力、マイクロ水力)発電の普及が期待されている。しかし効率向上等の技術的課題に加え、各種法規制や既得権への対応が困難であることから期待された普及には至っていない。本研究会では、長野県の地産地消エネルギーとして優位性を持つ小規模水力発電をターゲットとして、産学官連携のもと長野県内での普及促進のため、様々な技術的・社会的課題を情報共有することで課題解決の糸口を探ることを目的とする。

■活動内容

- 技術課題や法規制等に関する専門家等の講演及び意見交換
- 各種課題の整理と課題解決策の検討
- 事業化のための現地視察、先進地視察

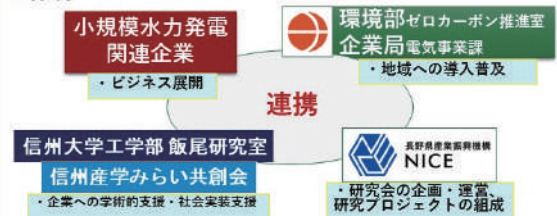


写真:新井製作所(須坂市)

■目指すところ

- 小規模水力発電を長野県内へ普及するための支援内容の検討
- 地産地消エネルギー・マネジメントシステムの可能性追求
- ゼロカーボン戦略実現への貢献

■体制



小規模水力発電研究会のスキーム

- ②講演:「水利権申請マニュアルの作成について」  
長野県企業局電気事業課
- ③話題提供3件:「米子小水力発電所の開業までの取り組みと県内企業が取り組み易くするための研究会への提言」「歴史的用水を活かした小水力発電による地域共生-SDGsと小水力発電-」「小規模水力発電と知的財産」

支援の結果及び今後の展開等

ものづくり企業以外からも多くの参加希望があり、小規模水力発電に関する事業や設備・機器等への関心の高さを知ることができました。目的が異なるそれぞれの企業が参加することによって、新たな連携と開発プロジェクトが生まれる予感がします。本研究会は県企業局、環境部、建設部等の各部局との協力も得られ、普及促進に係る行政側の課題や支援内容も知ることができました。また、既に発電事業を推進している企業からの苦労話など貴重な経験談を聞き、その後のディスカッションに有益な情報となっています。今後も県の各部局との連携を密にした講演等を企画し、活発な意見交換・情報交換の場を提供してまいります。

担当部署

グリーンイノベーション推進部

〒380-0928 長野市若里1-18-1(長野県工業技術総合センター3階)  
[TEL] 026-217-1634 [FAX] 026-226-8838 [Email] green-innv@nice-o.or.jp

# 水素エネルギー利用技術の先進技術の実態を調査し、事業化を目指す企業を支援

活用した補助金・支援制度等

地域センター事業

## 企業の現状及び支援の経緯

一昨年、新技術・新事業展開を探る北信企業の集まりであるNICE長野コラボネットの会員から、水素エネルギー利用に関して、更に見識を深めたいという意向を受けて、有志による分科会（WG）を発足しました。

令和5年度4月4日政府発表の水素の供給量を足下の200万tから2040年までに1200万tにするという方針を受けて、再生エネルギーの水素供給拡大が将来20兆円規模となるという予測から、実現可能なビジネスに展開をしたいという

意欲的な会員企業有志の希望に沿って、水素ワーキンググループとして定期的な会合を実施し、最新の技術動向や課題を紹介し、企業での取組を支援しています。

## 実施した支援内容

1. 水素ワーキンググループでは、7月に㈱Uホールディングスの協力を得て、再生可能エネルギーの余剰電力を水素に変えて水素吸蔵合金に蓄えたのち、必要に応じて水素を取り出して発電できる建物付帯型水素エネルギーシステムの運用状況をお聞きする勉強会を実施しました。
2. 11月には、NICE長野コラボネットの会員にも呼び掛

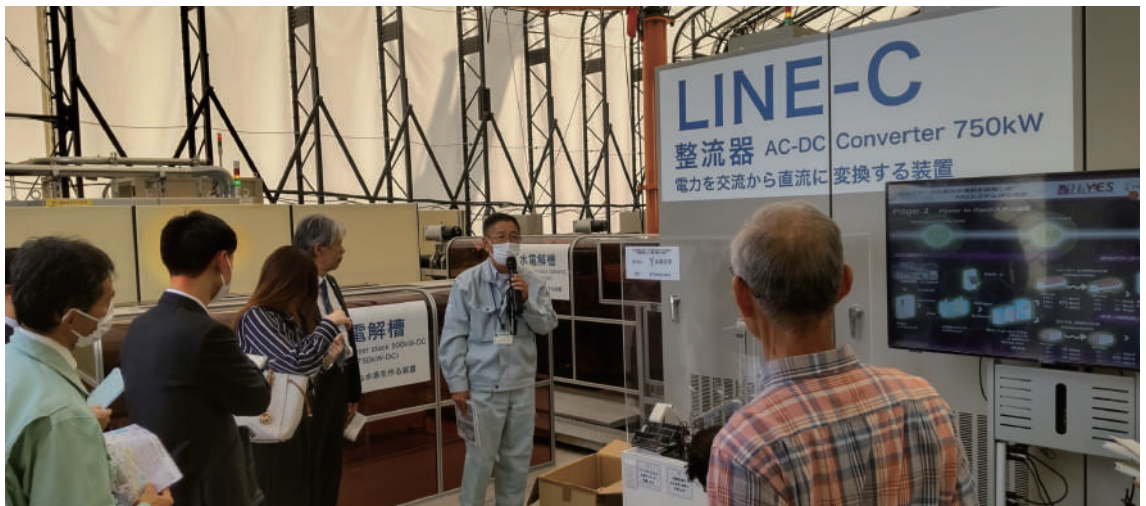


Uグループによる Hydro-Q-Bic の運用状況説明

けて、山梨県の米倉山電力貯蔵技術研究サイト並びに山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センターの視察を行い、電力技術の最新動向について見識を深めました。

## 支援の結果及び今後の展開等

水素ワーキンググループは、水素利用の事業展開を考えている企業の集まりです。今後の地球規模での気候変動問題への意識が高まる中、長野センターでは再生エネルギー、水素エネルギーの具体的な利用計画の策定に向けて最新の技術動向や課題を紹介し、意欲ある企業の取組を支援していきます。



山梨県・米倉山電力貯蔵技術研究サイト視察

## 支援を受けて

### 参加者の声

- ・今後、省エネを考えて事業に具体的にどう結び付けてゆくかの選択肢がわかってよかったです。
- ・LPガスであったり、燃料が高騰しているが、今後こういった代替エネルギーがあるのかという、情報がほしいです。

## 担当部署

### 長野センター

〒380-0928 長野市若里 1-18-1 (長野県工業技術総合センター 3階)  
[TEL] 026-225-6650 [FAX] 026-225-6711 [Email] nice-nagano@nice-o.or.jp



# 実践につながる！ プログラム未経験者を対象にPythonの基礎講座を開催し

## 企業の現状及び支援の経緯

人手不足による生産性が課題になる中で、多くの企業がIoTの必要性を理解されているものの、実際に導入するには多額の投資が必要であり、専門家に依頼することが一般的です。しかし、社内でIT人材を育成することで、社内でのIoT導入・活用が可能になる事例が数多くあります。

そこで、令和5年度の若手技術者養成講座「制御・IoT初級コース」では、IT人材育成の一環として、IoTに興味がある方、プログラム作成が必要になる方を対象に、プログラム言語であるPythonを学び、簡単な実践の機会となる入門講座を開催しました。

## 実施した支援内容

令和5年度 若手技術者養成講座「制御・IoT初級コース」を5回に亘り開催しました。

- 1.プログラミングの基礎を学ぶ(リアル開催)
  - ・mBlockを使ってプログラムに触れ、Pythonを使う準備を行う
- 2.プログラムの作り方、考え方(オンライン開催)
  - ・プログラムの作り方やPython文法(基本編)を学ぶ
- 3.Pythonのライブラリについて(オンライン開催)
  - ・Pythonのライブラリの最大のメリットとその問題点

及びインターネットを活用した学習と注意点

- 4.Pythonのライブラリを使ったプログラム基礎の実践1
  - ・ライブラリが正しくインストールできているかの確認とプログラムの実践(ネットワーク上のデータ収集と分析準備)
- 5.Pythonのライブラリを使ったプログラム基礎の実践2
  - ・プログラムの実践(アナログ時計の読み取り)

## 支援の結果及び今後の展開等

今年度は、これまでプログラミングの経験がない方を対象とした講座を開催し、14社から29名の方が参加されました。

以前は、設計部門を中心に受講者が集まっていましたが、今回は、製造技術部門、製造部門、品質保証部門など、多岐にわたる部門の方々に受講いただきました。

また、身近なプログラミングをテーマとして取り上げ、参加者には、プログラム入力用パソコンをご用意いただき、業務改善やデータ分析に役立てるためのプログラム実践を行いました。参加者の皆様からは、「取り組んだ事例が自身の仕事で実践できそう」との好評の声を多くいただきました。

今後も、皆様のご要望に沿った実践的な講座を企画してまいります。



## 支援を受けて

### 参加者の声

- ・このようなプログラミングの勉強は初めてで難しかったですが、分かり易く教えていただき、ありがとうございました。Excelの業務効率化は自分の業務で活用できると思いました。
- ・プログラミング経験がほぼない状態で参加しました。Pythonは初心者にも扱い易そうなシンプルなプログラム言語でした。ライブラリもあり、一から全て作らなくても使えることがわかり、業務改善、データ分析で使ってみたいと思います。
- ・今回初めてPythonを扱いましたが、今後測定器から出力されるcsvファイル等をまとめて出力するときに使えると感じました。

## 担当部署

### 上田センター

〒386-8555 上田市材木町1-2-6 (上田合同庁舎4階)  
 [TEL] 0268-23-6788 [FAX] 0268-23-6673 [Email] nice-ueda@nice-o.or.jp

### 企業の現状及び 支援の経緯

「製造工程を新しくしたいけれど、不良品が出ないか心配だ」と思うのは、工程設計者だけではなく、製品設計者、そして製造現場の全ての担当者や品質管理者に共通する不安です。これまでのアプローチでは、作業の標準化や検査に頼ることが多く、根本的な対策は問題が発生するまで、後回しにされてきました。

FMEA (Failure Mode and Effects Analysis) は、設計や製造工程における故障や不具合の発生を未然に防止するために考えられた手法です。

特に製造工程に焦点を当てた手法を「工程FMEA」と呼びます。

この手法は自動車や医療機器に限らず、現在では全ての製品に適用され、品質の向上やコストの低減に不可欠なものとなっています。

そのような中でこの講座では、基本的な理論だけでなく、すぐに実践可能な分かりやすい内容とし、さらに理解を深めるためのワークショップを組み込んだ実践的な講座として開催しました。

### 実施した支援内容

県内全域から品質保証、製造、開発など幅広い分野の方々に参加していただき2日間にわたる講座を開催しました。

初日は座学、2日目は参加者をグループに分け、具体的な課題に対するワークショップを行い、実践的でより深く理解していただく講座としました。

1日目

- I 工程管理の基本
- II 製造不良低減
- III ポカミス
- IV 重要工程管理
- V 製造不良原因究明

2日目

- VI FMEA (ワークショップ)
  - 1 実施マネジメント
  - 2 FMEAの実施



初日の座学



2日目のワークショップ

### 支援の結果及び今後の展開等

13社から19名の方が受講されました。FMEAは座学で理解したつもりでも実際に行ってみるとどう判断すべきか迷うことが多いのでワークショップ形式の講座がとても有効だと考えています。ラーチマネージメントリサーチの村岡先生の具体例を挙げての指導がわかりやすいと好評でした。今後も皆様の役に立つ品質向上のためのセミナーを開催していきます。



グループごとに課題に取り組む参加者

### 支援を受けて

#### 参加者の声

グループワークにて実際にFTA (Free Trade Agreement) ・FMEAを行うことで、さらなる知識が深まったので大満足です。所々に実際の実例を踏まえた内容でお話されていて、とても頭に入ってきやすく分かりやすかったです。受講するまで苦手意識があったが、どうすれば良いのかなどポイントもわかりやすかったので苦手意識が無くなりました。FTA・FMEAの考え方が「その不良は何をやったら作れるのか…」など今まで私は、製造現場や品質保証部でのクレーム対策しかやってこなかったのではとても参考になりました。

### 担当部署

#### 松本センター

〒390-0852 松本市島立 1020 (松本合同庁舎 2階)  
[TEL] 0263-40-1780 [FAX] 0263-47-3380 [Email] nice-matsumoto@nice-o.or.jp

**企業の現状及び  
支援の経緯**

中小製造業における労働者不足が深刻となっている中、その対策として自社内における生産性向上・品質向上等による省人化への取組（製造力強化活動）が急務となっています。伊那センターでは、製造力強化活動の支援を目的として、工程改善手法のひとつである「IE手法」取得のための講座の開催や、積極的な省人化活動の取組を行っている先進企業の見学会等を毎年実施しています。

※IE (Industrial Engineering) 手法とは、人・モノ・設備の動きを、工程・作業・動作まで科学的な手法に基づき細かく分析する手法



IE講座の様子

**実施した支援内容****1. IE講座（工程改善セミナーの開催）**

## ■開催日

令和5年5月24日（導入編）

令和5年10月13日、27日（実践編）

## ■内容

E & E Solutionの相吉代表を講師にお迎えし、座学中心の基礎コース（導入編）と、演習中心の応用コース（実践編）のIE講座を開催しました。演習では、実際にワークキットを組み立てながら、工程改善手法の重要性を体験していただきました。

**2. 先進企業見学会の実施**

## ■開催日

令和5年9月22日

## ■訪問先

IDECファクトリーソリューションズ株式会社（愛知県）

## ■内容

省人化ツールとして注目が高まっている協働ロボットについて、導入支援を行っているIDECファクトリーソリューションズ株式会社を訪問し、同社が提供する導入支援に焦点をあてたセミナーとデモ機による現場活用事例の紹介や自律走行搬送ロボットを活用している工場の見学を行いました。

**支援の結果及び今後の展開等**

IE講座に参加いただいた皆様からは、「工程改善の方法として、いろんな手法があることがわかり参考になった」「さらにレベルアップした内容も開催してほしい」等多くの意見をいただきました。また、先進企業見学会参加者からは、「実際の業務上の運用方法や現場での協業の仕方を肌で知ることができ、大変良い経験になりました。」等の感想をいただきました。今後は、より専門的な手法取得の講座や、現場における省人化ツールの活用事例を紹介できる企画を予定しています。日々、製造力強化活動に取り組みされている皆様のご参加をお待ちしております。



先進企業見学会の様子

**支援を受けて****参加者の声**

- ・削減できる作業やその方法を学べて参考になりました。
- ・標準時間の算出はとても勉強になり、自分の工程の作業で活用していきたいと思いました。
- ・MOST 法や作業分析について講義だけではなく、演習を交えての講座だったので、実際の活用方法が理解しやすく、自分の業務への活かし方をイメージしながら演習を行うことができ、とても勉強になりました。
- ・実際に使用している現場を見学する事ができ、参考になりました。
- ・工場見学やセミナーなど、貴重な機会があれば是非参加を検討したいです。

**担当部署****伊那センター**

〒399-4501 伊那市西真輪 2415-6（伊那技術形成センター内）

[TEL] 0265-76-5668 [FAX] 0265-73-9023 [Email] nice-ina@nice-o.or.jp



解決ヨロ

# 長野県よろず支援拠点

## 経営上のお悩みよろずで解決!!

売上拡大や経営改善等の経営課題の解決に向けて、  
一歩踏み込んだ専門的な提案を行います。



解決ローズ

専門のコーディネーターが地域の支援機関と連携し、様々な経営相談に対応します!  
中小企業・小規模事業者・創業予定の方、無料で何度でもご相談いただけます!

雇用・労務

売上拡大

IT活用

経営改善

債権保全・回収

販路開拓

技術相談

現場改善

お問い合わせ

TEL:026-227-5875 E-mail:info@nagano-yorozu.go.jp

URL:https://nagano-yorozu.go.jp/

詳しくはHPを  
ご覧ください。▶



# 長野県事業承継・引継ぎ支援センター

## こんなお悩みありませんか?

事業の引継ぎ方が  
わからない

後継者がいない

M&Aで  
事業拡大したい

何から始めたら  
良いかわからない

事業承継に関する  
理解を深めておきたい



国から委託を受けた公的相談窓口です

相談は無料です

相談内容は秘密厳守にて対応します

### まずはご相談ください。

事業承継の専門家が  
皆様のご相談をお受けいたします。

お問い合わせ

TEL:026-219-3825

URL:https://shoukei.nice-o.or.jp/

詳しくはHPを  
ご覧ください。▶



# 中小企業の経営改善・事業再生を支援します!

経営状態を把握し、  
経営を改善したい



ご相談

金融機関

経営環境の変化に対応し、  
事業の収益力を高めたい



ご相談

資金繰りが厳しく、借入金の  
返済が負担になっている



ご相談

事業の継続が困難で、  
新たな挑戦への支援が欲しい



商工会・商工会議所や税理士等



## 長野県中小企業活性化協議会【相談窓口】

相談無料・秘密厳守 事業再生支援の専門家にご相談を承ります。

お問い合わせ

TEL:026-227-6235 FAX:026-227-6086 E-mail:sskyo@nice-o.co.jp

URL:https://www.nice-o.or.jp/kassei/

詳しくはHPを  
ご覧ください。▶





## ご相談窓口&お問い合わせ先

### 総務企画本部

総務管理部 ..... TEL.026-226-8101  
企画連携部 ..... TEL.026-227-5803

### 新産業創出支援本部

次世代産業部 ..... TEL.026-217-1634  
・信州医療機器事業化開発センター  
・航空機産業支援センター  
飯田サテライト ..... TEL.0265-49-8047  
グリーンイノベーション推進部 ..... TEL.026-217-1634  
(グリーンイノベーションセンター)  
ITバレー推進部 ..... TEL.026-217-1635

### 地域センター

長野センター ..... TEL.026-225-6650  
上田センター ..... TEL.0268-23-6788  
松本センター ..... TEL.0263-40-1780

### 経営支援本部

経営支援部 ..... TEL.026-227-5028  
長野県よろず支援拠点 ..... TEL.026-227-5875  
マーケティング支援部 ..... TEL.026-227-5013  
・消費財チーム ..... TEL.026-235-7246  
企業再生支援部 ..... TEL.026-227-6235  
(長野県中小企業活性化協議会)  
事業承継・引継ぎ支援部 ..... TEL.026-219-3825  
(長野県事業承継・引継ぎ支援センター)

諏訪センター ..... TEL.0266-53-6000  
(内線2664)  
伊那センター ..... TEL.0265-76-5668

# 公益財団法人長野県産業振興機構

〒380-0928 長野市若里1-18-1 長野県工業技術総合センター 3階  
TEL.026-226-8101(代表) FAX.026-226-8838 URL:<https://www.nice-o.or.jp/>

